

五

嘉慶拾八年

御三代伊江親方日々記



嘉慶十八年癸酉  
正月

一十六日上下屋敷中女子共罷出、靈前江菓子共相手向、焼香いたし候事、一私もあんきんひん一重・ノ物一重相手向、焼香いたし候事、但、墓江も右之品孫共差遣焼香させ候事、

勝連御殿・仲村御靈前江も高麗餅一重ツ、差上、御焼香仕候事、(十九)廿七日蒲戸御書院御小性被仰付、難有次第三奉存候事、

咸豐拾老年辛酉十月写

本書落冊虫入切麿等八除

嘉慶拾八年酉

御三代伊江親方日々記共七冊

川平殿内

嘉慶十八年癸酉

正月

一十六日上下屋敷中女子共罷出、靈前江菓子共相手向、焼香いたし候事、

一私もあんきんひん一重・ノ物一重相手向、焼香いたし候事、

但、墓江も右之品孫共差遣焼香させ候事、

一勝連御殿・仲村御靈前江も高麗餅

一重ツ、差上、御焼香仕候事、

一廿七日蒲戸御書院御小性被仰付、

難有次第三奉存候事、



百々菓子香・酒代別冊ニ相記候、  
 一 靈前江二式ツ組之料理、客人江二汁  
 一 菜之料理、膳部帳之通也、  
 一 渡合之さはくり・上下やしき供中、  
 孫共乳母其外下女共々も菓子相手向、  
 焼香いたし候付、夜飯馳走いたし  
 候事、  
 一 墓所江勝連按司始焼香ニ罷出候  
 面々、其外孫共罷越焼香いたし候事、  
 一 かま戸事、去十七日御書院御小性被仰付、  
 明日御拝相勤申筈候処、故垣花里主  
 内儀死去いたし心喪仕居候付、来ル  
 廿五日ニ被仰付度旨、下こおり江申出  
 相濟候事、  
 一 廿五日、かま戸御書院御小性被仰付候御拝  
 相勤候事、  
 一 四ツ頭時分登城、御拝相勤御書院江  
 参上御拜申上、摂政・三司官御方参上  
 御届申上候事、  
 一 伊江御殿・宜寿次・仲村参上、御焼香仕  
 候事、  
 一 右相濟九ツ頭時分罷歸候付、酒迎ニかま戸

御儀死去いたし心喪仕居候付、来ル  
 廿五日、被仰付度旨、下こおり江申出  
 相濟候事、  
 一 廿五日、かま戸御書院御小性被仰付候御拝  
 相勤候事、  
 一 四ツ頭時分登城、御拝相勤御書院江  
 参上御拜申上、摂政・三司官御方参上  
 御届申上候事、  
 一 伊江御殿・宜寿次・仲村参上、御焼香仕  
 候事、  
 一 右相濟九ツ頭時分罷歸候付、酒迎ニかま戸

かたはるにせしむるに主之有立及心  
も亦保無自 此をさうめん候事

上様へ御祝儀之御使、御側仕川上し  
御出被成候付、かま戸本門内、私玄喚前二而  
御迎、佐久真し御案内中門へ御通  
本座御着被成候付、御多葉粉盆上、  
御薄茶上、御三献上、初而之御吸物二  
かま戸御取替、二番め之御差味二私  
御取替、御菓子・御茶差上、御婦之御  
御礼儀最前之通相勤候、

一 瑞祥寺へ御祝儀申上候事、  
此程段々之御礼申上候事、  
一 瑞祥寺・五徳院も罷出、此中之御礼  
申上候考候処、瑞祥寺へ広徳寺二而  
懸御目、五徳院へ中途二而懸御目候付、  
右之段御挨拶いたし候事、  
一 廿七日、去ル廿四日浜川親雲上・知念筑登之親雲上・細工  
玉城にや罷出、ふくに□<sup>(虫喰)</sup>之作り花立合、見事二

一 皇太子之御所 瑞祥寺ハ無撫  
 一 立菓子皿ニ高麗餅・蜜柑餅・ようかんなど  
 有合ニ而盛合差出候事、  
 一 昼間ハまんでう取寄、汁菜相付御馳走  
 いたし候事、  
 二月中  
 一 七日、下こおり小赤頭佐渡山思かめ・上間思かめ  
 御書院小赤頭被仰付候付、跡役恩川孫  
 次郎江被仰付、難有次第奉存候事、  
 一 八日、大和船来着、親方始召列之面々末々迄  
 一日片時も不快于無之、別而達者罷在候由  
 書状到来、且右船ノ帰帆被致候上原親雲上・  
 永松里之子親雲上見廻、兩人ノ委細之咄共承、  
 いつれも大慶不斜安穩いたし候事、  
 一 三相齊画之寿老人掛物一幅到来、  
 則一覽いたし候処、別而面白楽ニ相成候、  
 一 深川嘉三与申覺府医者調合いたし候  
 加味温膽丸与申丸薬一包、去年八月比

一 皇太子之御所 瑞祥寺ハ無撫  
 一 立菓子皿ニ高麗餅・蜜柑餅・ようかんなど  
 有合ニ而盛合差出候事、  
 一 昼間ハまんでう取寄、汁菜相付御馳走  
 いたし候事、  
 二月中  
 一 七日、下こおり小赤頭佐渡山思かめ・上間思かめ  
 御書院小赤頭被仰付候付、跡役恩川孫  
 次郎江被仰付、難有次第奉存候事、  
 一 八日、大和船来着、親方始召列之面々末々迄  
 一日片時も不快于無之、別而達者罷在候由  
 書状到来、且右船ノ帰帆被致候上原親雲上・  
 永松里之子親雲上見廻、兩人ノ委細之咄共承、  
 いつれも大慶不斜安穩いたし候事、  
 一 三相齊画之寿老人掛物一幅到来、  
 則一覽いたし候処、別而面白楽ニ相成候、  
 一 深川嘉三与申覺府医者調合いたし候  
 加味温膽丸与申丸薬一包、去年八月比

自分も相用候処、別而妙薬ニ而母江  
 進ミ候由ニ而到来いたし、親切成儀ニ候処  
 其詮無之残念之至存候事、  
 一十一日、宜野湾御殿江参上、王子様・沢岬按司加那志  
 大山按司御忌中、御安否御尋申上候事、  
 一十三日、孫次郎事、去七日下こおり小赤頭被  
 仰付、今日御拜相勤候事、  
 一四ツ頭時分登城、御拜相勤御近習方江  
 参上御拜申上、摂政・三司官御方参上御届  
 申上候事、  
 一伊江御殿・護得久御殿・宜寿次・仲村  
 参上御焼香仕、九ツ時分罷帰、御霊前  
 御焼香いたし候事、  
 一右相済、酒迎ニ次郎本座江着せ、私  
 罷出、盃立・肴立・吸物二ツ・焼酎出し、致取替  
 候事、  
 一当分客人共相招祝候様ニ者不罷成、祝儀ハ  
 相延候へ共、御拜相勤候付、上下屋敷中  
 相招料理さうめん出せ輕相祝候事、  
 一十七日、昨日月湛長老御出被仰聞候者、  
 平敷親雲上ヲ木蓮被相讓、花最中ニ而  
 別而見事ニ有之候間、今日罷出見可申由  
 御招有之、九ツ時分参上花見物いたし、暫

御咄共いたし、八ツ頭時分二者下やしきニ罷越、  
入相時分罷帰候事、

一 伍徳院庸道長老・佐久本筑登之親雲上も有合、  
囲碁共見物いたし候事、

一 一ふうくニ煮物業相付、御馳走有之候事、  
一 散砂糖一重持参差上候事、

一 十八日、伍徳院長老を、したり桃最中ニ而候間  
罷出見可申由御招有之、八ツ時分罷出、本立寺も  
御出緩々御咄いたし、入相時分帰宅、

一 散砂糖一重持参致進覧候事、  
一 葛餅ニ黄粉付之菓子・吸物二ツ・焼酎出、  
取肴・茶請共色々出、昼間さうめんニ而  
蕎麦切之あんはい、晩茶粥ニ煮物・湯  
なます、段々御心入之御馳走有之候事、

一 十九日、九ツ時分下やしきニ罷越、西半時分ハ  
宜寿次江罷出、夜入候而罷帰候事、  
一 花園拵方ニ付而ハ、浜元筑登之親雲上不断被罷出  
下知方被致、供之者共江も毎日いふ等持運ひ  
させ、難儀いたし候付、硯水とよまんてう  
取寄、浜元江汁菜相付、焼酎・取肴出  
馳走いたし、供之者共江ハ菓子皿ニ盛り候事、  
一 永松里之子親雲上・同人三男も相招、浜元同前

一 永松里之子親雲上・同人三男も相招、浜元同前

一 蕎麦切之あんはい、晩茶粥ニ煮物・湯  
なます、段々御心入之御馳走有之候事、

一 十九日、九ツ時分下やしきニ罷越、西半時分ハ  
宜寿次江罷出、夜入候而罷帰候事、

一 花園拵方ニ付而ハ、浜元筑登之親雲上不断被罷出  
下知方被致、供之者共江も毎日いふ等持運ひ  
させ、難儀いたし候付、硯水とよまんてう  
取寄、浜元江汁菜相付、焼酎・取肴出  
馳走いたし、供之者共江ハ菓子皿ニ盛り候事、  
一 永松里之子親雲上・同人三男も相招、浜元同前

一 永松里之子親雲上・同人三男も相招、浜元同前

一 永松里之子親雲上・同人三男も相招、浜元同前

一 永松里之子親雲上・同人三男も相招、浜元同前

此の通りし候事

宜寿次親方、つ、木之花最中見事二  
有之候間、罷出見可申由、催有之、西過時分  
二者宜寿次江罷出花見物いたし、吸物  
一ツ・みそ煮ふた手引三而結構成夜飯  
馳走有之、仲村親方も有合三而緩々相  
かたり、夜入候而罷歸候事、

廿二日、嘉手川筑登之親雲上与申者大和を帰帆いたし  
候由三而見廻、親方始列登候面々末々迄別而  
達者罷在候由、吉左右承、いづれも致大慶  
候事、

在嘉手川小京大和筆者大湾里之子親雲上内二而  
渡唐、大和江漂着いたし、自分ハ被  
残置、去十二日先島行大和船を山川  
出帆、何歟与申所江潮懸、去十八日同所  
出帆、廿一日読谷山みさき内乗来候処、  
迎風三相成読谷山沖江潮懸、船頭  
同道三而陸地罷登候、親方直三此方江  
罷出、吉左右相達くり度由被申付、罷出  
候由、

親方始列登候面々書状も、袋一ツ二入  
持下候処、船頭急三罷下候付、書状ハ持登

馳走いたし候事、

一宜寿次親方、つ、木之花最中見事二

有之候間、罷出見可申由、催有之、西過時分

二者宜寿次江罷出花見物いたし、吸物

一ツ・みそ煮ふた手引三而結構成夜飯

馳走有之、仲村親方も有合三而緩々相

かたり、夜入候而罷歸候事、

一廿二日、嘉手川筑登之親雲上与申者大和を帰帆いたし

候由三而見廻、親方始列登候面々末々迄別而

達者罷在候由、吉左右承、いづれも致大慶

候事、

一右嘉手川事、北京大筆者大湾里之子親雲上内二而

渡唐、大和江漂着いたし、自分ハ被

残置、去十二日先島行大和船を山川

出帆、何歟与申所江潮懸、去十八日同所

出帆、廿一日読谷山みさき内乗来候処、

迎風三相成読谷山沖江潮懸、船頭

同道三而陸地罷登候、親方直三此方江

罷出、吉左右相達くり度由被申付、罷出

候由、

一親方始列登候面々書状も、袋一ツ二入

持下候処、船頭急三罷下候付、書状ハ持登

右船入津次第早速持登、

廿三日、広徳寺かんす・万祥院大展長老、  
つ、木之花最中ニ而候間、罷出見物いたし  
候様、兼而御招有之、八ツ時分罷出花見物  
いたし、緩々御咄、夜入候而罷帰候事、

一宜寿次親方・仲村親方も御招有之、孫かま戸・  
かめも相列罷出候様、兼而被仰聞、皆々  
罷出候事、  
一本立寺・天王寺・五徳院・瑞祥寺長老衆も  
御出、緩々御咄いたし候事、

一吸物七ツ八ツ・焼酎・取肴・とんぶり・長硯ふた  
出、晩ハ手引一ツ之料理御馳走有之、供之者  
夜めし被下、段々被入御念儀御座候事、  
一散砂糖一重五斤持参致進覽候事、

一廿八日、先鳥行大和船来着、親方之書状  
到来、親方始召列候面々末々迄別而達者ニ  
罷在候由承、いづれも大慶不斜候事、  
三月中

一八日、宮古島之飛船来着、春楫船之儀  
十一月十五日山川出帆、風不順ニ而廿四日宮古島江  
漂着いたし候由、翌九日之晚親方之書状

不申候間、右船入津次第早速持登  
可申由、

宮古人持參相届、則披見いたし候処、十月十七日之日付二而、親方始召列候面々末々迄一日片時も不快等無之、別而達者罷在候由、いつれも大慶いたし候事、

一十二日、真つる申候者、亡母毎月之月忌御茶湯迄二而ハ難黙止候間、三年忌迄ハ輕料理之初靈前江相手向候而ハ何様候哉与申候付、是ハ厚キ心入殊勝之至感心いたし候、私も宜寿次亡母様御三年内ハ、毎月御月忌之日三者御菓子差上、御焼香仕候例も有之候間、愈所存之通可然由、相答候事、

但、右心入感心いたし候間、私も三年忌迄ハ毎月之月忌ニ輕菓子相手向、

焼香可仕与存候事、

一十日、清明之節二而一門中例之通方々御墓所参詣いたし候事、

一十一日、亡室三年忌内二而、宜寿次亡母様御三年

内之例之通、孫共相烈罷越、此方御墓所、

宜寿次御墓所・真志喜御墓所参拝仕候事、

一此方御墓所江ハじよく餅一重・メ物一重、

御茶湯差上、御焼香仕候事、

但、御酒ハ差上不申候、

仕右ハ入感心いたし候間、私も三年忌迄ハ毎月之月忌ニ輕菓子相手向、  
燒香可仕与存候事、  
一十日、清明之節二而一門中例之通方々御墓所参詣いたし候事、  
一十一日、亡室三年忌内二而、宜寿次亡母様御三年内之例之通、孫共相烈罷越、此方御墓所、宜寿次御墓所・真志喜御墓所参拝仕候事、一此方御墓所江ハじよく餅一重・メ物一重、御茶湯差上、御焼香仕候事、但、御酒ハ差上不申候、

御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

但、家内人数・宜寿次・仲村人数、勝連御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

一右相済、八ツ時分ニ者直ニ下やしきニ罷越相慰候事、

但、家内人数・宜寿次・仲村人数、勝連御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

御殿真まつも子共相列罷越候付、昼間ハ私をまんでう・菜相付、晩ハ真つるを糝馳走いたし候事、

馳走いたし候事、

一十七日、明日仲村筑登之親雲上娘真加戸婚礼ニ付、

左之通差遣候事、

一錢百貫文ツ、私・親方兩人ニ而真加戸江

一三百貫文、私・親方ニ而合力

一五拾貫文、真つるを真加戸江

十九日、初呼之時

一赤むしかう一重、富盛祖母を

廿日

一黄赤二色むしかう一くしき、真つるを

一同日、名渡山里之子親雲上事、屋嘉比里之子親雲上流刑

一件ニ付不宜儀共有之、此程差咎目置

候処、彼是勘違いたし至極無調法之段、

浜川親雲上を以折入断之趣有之、差免

候付、翌十八日右礼ニ罷出、且宜野湾王子

思召之次第共咄承候事、

一十九日、内間親雲上乘船入津、親方を吉

左右之書状到来、いつれも大慶いたし候事、

此書以下未々迄之書状袋二入到来、  
 其内、古謝筑登之親雲上乗船入津、古謝江  
 相付帰帆いたし候那覇兼城筑登之親雲上与申者、  
 親方宿許状其外烈之者共書状入袋一  
 持參相届候事、  
 一宿許状披見いたし候処、三月二日之  
 日付二而、親方始与力其外烈之者共別而  
 達者二而、一日片時も不快等無之由  
 相見得、いづれも大慶不斜候、  
 一長崎制之菓子一箱、親方到来、  
 一兼城筑登之親雲上相逢、大和之咄共承候、  
 立形石燈爐なども積下候間、早々  
 卸方可申付由、  
 一廿五日、徳之島江罷下候大和船、御当地江  
 漂着、今日出帆仕候由承、親方江差遣候  
 宿許状、夜中ニ相認今日瀬底里之子□  
 こおり鳥袋にや差遣相頼候事、  
 一上下やしき中、一門親類衆江も御別余

但、方々江書状百三十通余箱二入、其外

与力以下未々迄之書状袋二入到来、

則銘々相届させ候事、

一鯨あふらかす一壺・掛物寿老人一幅到来、  
室裏の江

一鯉ふし

一廿四日、一昨日古謝筑登之親雲上乘船入津、古謝江

相付帰帆いたし候那覇兼城筑登之親雲上与申者、

親方宿許状其外烈之者共書状入袋一

持參相届候事、

一宿許状披見いたし候処、三月二日之

日付二而、親方始与力其外烈之者共別而

達者二而、一日片時も不快等無之由

相見得、いづれも大慶不斜候、

一長崎制之菓子一箱、親方到来、

一兼城筑登之親雲上相逢、大和之咄共承候、

立形石燈爐なども積下候間、早々

卸方可申付由、

一廿五日、徳之島江罷下候大和船、御当地江

漂着、今日出帆仕候由承、親方江差遣候

宿許状、夜中ニ相認今日瀬底里之子□  
(虫喰)

こおり鳥袋にや差遣相頼候事、

一上下やしき中、一門親類衆江も御別余



候へ者酒色ニふきりきいしい之家ニ引籠  
前後忘却之体候由、然者右様之不埒者  
猶又登せ物宰領ニ而差遣候而ハ決而不宜由、  
いつれも申出候付、宜寿次親方江も相談  
を以、今日右小浜代り文子仲村にや江  
申付候事、

四月中

一四日、内間親雲上見廻、先日咄承候懸物二幅  
左之通持参拜受いたし候事、  
一高橋霖山様も、老松ニ朝日之懸物一幅  
被下候事、

一親方も、山下正助殿作意之綴文懸物一幅  
到来、

○八日、

万祥院大展長老御出被仰聞候ハ、  
伊江島儀保・大城大屋子寺江走込ニ而  
申出候者、文子小浜にや事、去夏下り物  
宰領ニ而中渡被申付罷下候付而者、  
大切成付届昼夜出精ニ而諸首尾引結、  
且上り仕出もいつれも者差図を受  
精勤可致之処、右之勘弁も無之、明暮呑酒  
ニ而段々無調法之次第有之候付、上国も  
被召替御咎目被仰付候儀、御尤至極ニ  
奉存候、然者小浜儀ニ付而ハ何ぞ可申上  
様も無之候得共、親類共江も至極恐入候段

長老を以て申出趣承届候事、  
 右三付御返答之趣ハ、小浜事段々不埒  
 之次第有之、及数千度召寄候へ共不  
 罷登候付、急度親類共江も呼寄相談  
 させ候様申談候処、大城江ハ無其心得内走登  
 小浜殿敷阿付、諸首尾等差引承届  
 候由、殊勝之至何そ越度之かと無之断之趣  
 承候間、此方江も罷出候様御申付可  
 被成由、御返答いたし候事、  
 □九日、本立寺・天王寺・瑞祥寺長老衆  
 招上、碁会いたし候事、  
 一宜寿次親方も相招罷出候事、  
 一吸物一ツ昼間ハふうく業除相付御  
 馳走いたし候事、  
 一十日、天王寺長老招上囲碁いたし候事、  
 一次男真玉橋里之子親雲上ら、抹物之初与て  
 まんてう到来ニ付、汁菜相付御馳走  
 いたし候事、  
 一伍徳院・万祥院長老も招上候処、  
 差支御出無之候付、まんてう小重箱ニ  
 入菜相付進覽いたし候事、  
 一宜寿次親方・仲村親方も相招被罷出候事、

一宜寿次親方も相招罷出候事、  
 一吸物一ツ昼間ハふうく業除相付御  
 馳走いたし候事、  
 一十日、天王寺長老招上囲碁いたし候事、  
 一次男真玉橋里之子親雲上ら、抹物之初与て  
 まんてう到来ニ付、汁菜相付御馳走  
 いたし候事、  
 一伍徳院・万祥院長老も招上候処、  
 差支御出無之候付、まんてう小重箱ニ  
 入菜相付進覽いたし候事、  
 一宜寿次親方・仲村親方も相招被罷出候事、

月日秋引候に津道、後程舟内証聞  
比嘉里之子親雲上右船の帰帆、親方々の書状  
持参相届候事、

右状披見いたし候処、親方始召列候  
人数末々迄一日片時も不快等無之、別而  
達者罷在候由、いづれも大慶不斜候事、  
但、三月十二日之日付、

三月十五日ニ山川江廻船、当月三日  
山川出帆いたし候由、  
廿七日、瑞祥寺越演長老御出、先日月越  
へん豆致進覧候御礼被仰聞、暫御咄共  
いたし、葛餅御馳走いたし候事、

一孫樽事、最早八歳ニ罷成読書等  
相勧候処、然々出精無之油断ケ間敷有之、  
込入申事候、兄兩人ハ毎朝貴僧ガ  
御読せ被下候付、懈怠無之殊勝ニ存  
申候、然者御序ニ御頼申上候儀、  
御無礼之至候へ共、御面倒なから樽も  
御抱御読せ被下度頼上候段申上候付、  
成程御読せ被成候間、兄共一同毎朝  
差遣可申由被仰聞候、  
一翌廿八日、吉日ニ而樽瑞祥寺江罷出

儀事相始候事

但、例之通さうめん一台致進覽候事、

一廿八日、蒲戸扶知之初献上仕度相願、去

廿三日我謝御殿江參上、

上様 野嵩按司加那志様江あや前御取次

奉願候処、弥可差上由被仰下、今日日柄も

宜候付、左之通献上又者方々江差上

候事、

上様 佐敷按司加那志様 野嵩按司加那志様江

こひきこん二積差上候事、

方々江進上左記、

伊江御殿御霊前御神三通、殿内

御霊前、宜寿次・仲村御霊前、伊江按司御伯

祖母・越得久御殿・幸地殿内・内間・前川・

富盛・上原御殿・勝連御殿・豊見城・

師匠新城里之子親雲上・慶世村親雲上・金城あや前

五月申

一三日、宜寿次親方・仲村親方・奥平親方家内

物入之儀共有之、方々借銭及重高、右返済

用之儀、伊江島砂糖買入を以首尾方いたし

候外術無之、右三人連名を以下知役・檢者・

さはくり江頼越之趣有之候処、当年者秋

伊江御殿御霊前御神三通、殿内  
御霊前、宜寿次・仲村御霊前、伊江按司御伯  
祖母・越得久御殿・幸地殿内・内間・前川・  
富盛・上原御殿・勝連御殿・豊見城・  
師匠新城里之子親雲上・慶世村親雲上・金城あや前  
五月申

一三日、宜寿次親方・仲村親方・奥平親方家内  
物入之儀共有之、方々借銭及重高、右返済  
用之儀、伊江島砂糖買入を以首尾方いたし  
候外術無之、右三人連名を以下知役・檢者・  
さはくり江頼越之趣有之候処、当年者秋

儀事相始候事  
但、例之通さうめん一台致進覽候事、  
一廿八日、蒲戸扶知之初献上仕度相願、去  
廿三日我謝御殿江參上、  
上様 野嵩按司加那志様江あや前御取次  
奉願候処、弥可差上由被仰下、今日日柄も  
宜候付、左之通献上又者方々江差上  
候事、  
上様 佐敷按司加那志様 野嵩按司加那志様江  
こひきこん二積差上候事、  
方々江進上左記、

凶作三付而砂糖上納方及不足、古未進上納  
 之手当三而砂糖四万五千斤上納仕候内、  
 壹万五千斤ハ凶作之謂を以御断申上、  
 公事而惣地頭江上納いたし、五千斤者  
 余計有之候付、宜寿次・仲村・奥平三ヶ所  
 配分を以被買取答候処、今日仲村親方  
 被罷出承候者、昨日奥平親方見廻いたし  
 候処、奥平被申候者、右砂糖五千斤之儀右通  
 三ヶ所配分を以買取申答候処、仲村儀ハ郷田  
 源衛殿首尾方ニ相懸り、別而無扱次第二候間、  
 宜寿次・奥平江配分高も仲村取力納  
 被差登可然哉与存候由被申候付、此者  
 近頃忝次第二候へ共、宜寿次江も無扱入用  
 有之事候へ者、彼配分高議取候様二者  
 難仕由申候付、左候ハ、私江も相談可致由  
 被申候由承候付、私申候者、奥平存寄  
 之次第尤之儀、私江も別而同意ニ存候間、  
 宜寿次江ハ私相談可仕由申達、則前川・  
 金城・渡嘉敷、宜寿次江差遣相談させ候処、  
 奥平親方存寄忝次第二候間、愈自分配  
 分高も仲村江相讓答候、然なから来年

宜寿次江も無扱入用有之事候へ者、彼配分高議取候様二者  
 難仕由申候付、左候ハ、私江も相談可致由  
 被申候由承候付、私申候者、奥平存寄  
 之次第尤之儀、私江も別而同意ニ存候間、  
 宜寿次江ハ私相談可仕由申達、則前川・  
 金城・渡嘉敷、宜寿次江差遣相談させ候処、  
 奥平親方存寄忝次第二候間、愈自分配  
 分高も仲村江相讓答候、然なから来年

亡父様御年回忌相当候付而ハ、砂糖差登  
干物ナト誂下不申候而不叶事候間、  
砂糖十丁ハ此方借いたし度由、返答  
有之候付、宜寿次江も無抛事候間、弥  
十丁ハ相渡可申由申付候事、

一右通申談置候処、五月五日節句ニ而  
宜寿次・仲村御焼香ニ被罷出候付、猶又  
前文之次第申談候処、宜寿次申候者、  
前文之通自分配分高も仲村江  
相讓候筋返答仕置候処、得与相考候へ者、  
奥平事此節も鳥ハ砂糖相応ニ  
取入少も不足無之由、内々承候、夫故  
右之所存も有之筋相見得候、然者  
砂糖所望相達不申候ハ、家内必至与  
及困窮候次第、下知役・檢者・さはくり  
中江も申越置候処、右砂糖仲村江  
相讓候而ハ、兼而鳥江申越候旨趣ニも  
相替、猶又鳥ハ砂糖所望之支ニも可  
相成候間、右砂糖配分高ハ被取入、  
大和江差登申筋ニ相決候間、仲村江ハ  
此方ハ砂糖相渡可申由、達而申候付、  
来年鳥ハ砂糖所望之支ニ者相成間敷由、

一右通申談置候処、五月五日節句ニ而  
宜寿次・仲村御焼香ニ被罷出候付、猶又  
前文之次第申談候処、宜寿次申候者、  
前文之通自分配分高も仲村江  
相讓候筋返答仕置候処、得与相考候へ者、  
奥平事此節も鳥ハ砂糖相応ニ  
取入少も不足無之由、内々承候、夫故  
右之所存も有之筋相見得候、然者  
砂糖所望相達不申候ハ、家内必至与  
及困窮候次第、下知役・檢者・さはくり  
中江も申越置候処、右砂糖仲村江  
相讓候而ハ、兼而鳥江申越候旨趣ニも  
相替、猶又鳥ハ砂糖所望之支ニも可  
相成候間、右砂糖配分高ハ被取入、  
大和江差登申筋ニ相決候間、仲村江ハ  
此方ハ砂糖相渡可申由、達而申候付、  
来年鳥ハ砂糖所望之支ニ者相成間敷由、

段々相談いたし候へ共落着無之候付、  
 不及是非此方分配高十三斤ハ  
 仲村江可相渡旨申付候事、  
 一十三日、新崎里之子罷出承候者、去未  
 十二月亡父勲功を以御用意御蔵  
 筆者被仰付、右御蔭を以ハ以後家内  
 取続可申与相考候処、以之外両先島  
 上納積船数艘上着無之、御蔵江取納物  
 過半相減、何之御蔭無之、帳面勘定被  
 相遂候処、錢四千貳百貫文余不足相立、急度  
 上納仕候様、上納之術一糸ん無之及御  
 咎目三涯三罷成候付、一門中江加勢相  
 頼候付、貳千貫文ハ借銀相渡候処、猶千  
 五百貫文無之候而ハ不足物目成不申候付、  
 段々借入方相働候得共相達不申、最早  
 逢御咎目三候涯三罷成、老母も甚及  
 世話三、夜も寝不申悶居候、自然御  
 汰之通流刑被仰付候ハ、母之命も  
 たまり申間敷与歎入申事候、就夫  
 近比厄害之至難申上候へ共、親子御救  
 千五百貫文ハ御借被下度相願候由承候付、  
 私申候者、此方江も当夏登進物過分

段々相談いたし候へ共落着無之候付、  
 不及是非此方分配高十三斤ハ  
 仲村江可相渡旨申付候事、  
 一十三日、新崎里之子罷出承候者、去未  
 十二月亡父勲功を以御用意御蔵  
 筆者被仰付、右御蔭を以ハ以後家内  
 取続可申与相考候処、以之外両先島  
 上納積船数艘上着無之、御蔵江取納物  
 過半相減、何之御蔭無之、帳面勘定被  
 相遂候処、錢四千貳百貫文余不足相立、急度  
 上納仕候様、上納之術一糸ん無之及御  
 咎目三涯三罷成候付、一門中江加勢相  
 頼候付、貳千貫文ハ借銀相渡候処、猶千  
 五百貫文無之候而ハ不足物目成不申候付、  
 段々借入方相働候得共相達不申、最早  
 逢御咎目三候涯三罷成、老母も甚及  
 世話三、夜も寝不申悶居候、自然御  
 汰之通流刑被仰付候ハ、母之命も  
 たまり申間敷与歎入申事候、就夫  
 近比厄害之至難申上候へ共、親子御救  
 千五百貫文ハ御借被下度相願候由承候付、  
 私申候者、此方江も当夏登進物過分

事二而、右調料春楫船の私物相應ニ  
 差下候由、問合有之候処、右船宮古しま江  
 漂着いまた帰帆無之候付、当分八方々々  
 借入を以相調申仕合ニ而、別而当迫之折柄  
 二而相断申筈候処、其方親父事、  
 別而丁嚙ニ相交私為ニ者親切を尽シ、  
 御役目中私心得ニ相成候儀共、諸書物  
 拔書を以、役務之助ニも相成、今ニ無忘却  
 忝存候付、断も申かたく候付、惣聞共相談  
 を以明日返答可致由、御答置候事、  
 一十四日、右一件夜前も得与相考候処、親父  
 新崎事、存在中私為ニ者別而親切を  
 尽、厚心入之程今更無忘却黙止かたく  
 候間、前川・渡嘉敷も那覇江罷下居候付、  
 相談ニ不及、此涯親子相救候筋を以合力いたし  
 候筋ニ相決、山城里之子差遣錢千五百貫文  
 もたせ参り候処、折節新崎ハ外江罷出、  
 母被罷出涙を流し被申候者、悴事何歎  
 徒事ニ財物を尽候儀共有之候ハ、御答目  
 を蒙候共無是非儀与存候処、役中別而  
 相慎何そ徒事等無之出精相勤候付而ハ、  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之

御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之  
 御物不足共無之筈与存候間、右通存外之

次第、自然御勤上納不相調蒙御咎目  
 候ハ、自分之命もたまり申間敷与、  
 昼夜悶居申候付、親子御救御恩借  
 被下度御願居候処、無存懸太分之  
 銭高御合力被下候由、誠以難有次第  
 心底之程御礼も不得申上候間、何分も  
 宜申上度由、新崎も追々罷帰参を以  
 御礼申上筈候へ共、其内宜様ニ与申候由、  
 一追而新崎罷出厚礼謝申出候付、御物  
 首尾方相濟候ハ、私江も申聞  
 候様相達候事、

一十八日、倅親方新喬麦一俵差下候付、  
 上様江とふか御初献上仕度相願、頭慶世村  
 親雲上江相談させ候処、愈差上候而可宜由被  
 申候付、去十五日かま戸我謝御殿江参上、  
 来ル十八日献上仕度由、祖父相願候段、  
 あんしたれ前御取次奉伺候処、弥可差上由  
 被迎下、今日拝調かま戸我謝御殿江  
 参上差上候処、珍敷喬麦切差上御喜悅ニ  
 被思召上候段、御返詞奉承知難有次第  
 奉存候事、

浦戸并宰領ニ而罷下□与儀里之子親雲上

次第、自然御勤上納不相調蒙御咎目  
 候ハ、自分之命もたまり申間敷与、  
 昼夜悶居申候付、親子御救御恩借  
 被下度御願居候処、無存懸太分之  
 銭高御合力被下候由、誠以難有次第  
 心底之程御礼も不得申上候間、何分も  
 宜申上度由、新崎も追々罷帰参を以  
 御礼申上筈候へ共、其内宜様ニ与申候由、  
 一追而新崎罷出厚礼謝申出候付、御物  
 首尾方相濟候ハ、私江も申聞  
 候様相達候事、

其外供日用共迄御休被成下候由、  
 一右之御残、此方御靈前、宜寿次・仲村  
 御靈前江差上候事、  
 但、此方御靈前ハ御枕ニ積候而差上、宜寿次・  
 仲村江ハ八寸一重ツ、差上候事、  
 一八寸五分重箱一組ニ三次、蕎麦切一重  
 御品盛合錫之切立一ツ、御汁小形  
 湯次ニ蕎麦之汁入差上候事、  
 一御包丁照屋筑登之親雲上・同浜村筑登之親雲上外  
 式人相頼拜調候事、  
 一頭慶世村親雲上江御残八寸一重汁品相付  
 もたせ進候事、  
 一廿六日、かま戸相中喜名里之子・垣花里之子・  
 今帰仁里之子組合、師匠亀島里之子親雲上相頼、  
 下やしきニ会所相立、いづれも学問致出精  
 候事、  
 一右人数外仲村し・当間し・比嘉しも  
 罷出、出精いたし候事、  
 一廿八日、真壁按司・真壁里之子親雲上御暇乞ニ御出  
 被成候付、親方江伝言共申上暫御咄共申上、  
 左之通御馳走差上候事、  
 一御吸物三ツ・御菓子・御茶差上、湯取餅

小平相付御馳走いたし候事、  
 池城親方此間暇乞門迄御出被成候付、  
 一刻者内江御通被成度由申入候処、  
 其日者方々被罷通いそかわしく候間、  
 近日中被罷出由承候処、只今被罷出、  
 折節与那覇里之子親雲上也暇乞ニ罷出候付、  
 同然御馳走伝言共いたし候事、  
 一廿九日、伊江按司御伯祖母御事、此程御  
 病氣ニ付御安否伺ニ奥平江罷出懸  
 御目候処、余程御草臥御根氣も御不足  
 之様子ニ而、御念遣之事候へ共、昨今者  
 御脈体も宜由、浦崎親雲上被申候、  
 一卷たはく七ツ真つる格護仕置候由  
 申候付、もらい候而持参差上候処、忝由  
 かすかに被仰聞候、  
 一煎薬者本参・条参共相加調合いたし  
 候由、  
 一同日、仲村里之子親雲上・比嘉筑登之親雲上饒別相招  
 緩々相かたらへ、親方江伝言共いたし候思ニ而、  
 兼而約束仕置候処、比嘉者母不幸ニ付而  
 不罷出、仲村里之子親雲上晩方罷出、且かま戸・  
 知念里之子・三男浦崎しも暇乞ニ罷出候付、

お慶延々相かたらい、親方江伝言共いたし

候事

一吸物三ツ菓子胡麻餅・茶出、本膳五ツ組ニ

手引一ツ・間之吸物三ツ其外膳部

之通馳走いたし候事、

六月中

二日、親方誕生日ニ而、上下やしき中其外

女子共相招祝候事、

一蒲戸相中衆師匠亀島里之子親雲上・

垣花里之子・今婦仁里之子・仲村里之子・其外

同学当間し・知念しなど下やしきニ

被罷居候付相招候付、晩方ハ皆々被罷出緩々祝

候而被罷帰候事、

一旅おとりつ、ミ打三返手打候而、かゑな三度

いたし候事、

一晚ハ手引一ツ之料理惣人数馳走、

座者間之吸物三ツ・焼酎・取肴など出

候事、

一三日、春楳船宮古島ヲ帰帆、嵩元里之子親雲上

登城、戻懸早々預見廻、段々大和之咄共

承、いつれも大慶不遇之安心いたし候事、

一六日、進貢両唐船入津、勢頭以下役者中

候事

六月廿一日  
六月廿二日  
六月廿三日  
六月廿四日  
六月廿五日  
六月廿六日  
六月廿七日  
六月廿八日  
六月廿九日  
七月一日  
七月二日  
七月三日  
七月四日  
七月五日  
七月六日  
七月七日  
七月八日  
七月九日  
七月十日  
七月十一日  
七月十二日  
七月十三日  
七月十四日  
七月十五日  
七月十六日  
七月十七日  
七月十八日  
七月十九日  
七月二十日  
七月二十一日  
七月二十二日  
七月二十三日  
七月二十四日  
七月二十五日  
七月二十六日  
七月二十七日  
七月二十八日  
七月二十九日  
七月三十日

六月廿一日  
六月廿二日  
六月廿三日  
六月廿四日  
六月廿五日  
六月廿六日  
六月廿七日  
六月廿八日  
六月廿九日  
七月一日  
七月二日  
七月三日  
七月四日  
七月五日  
七月六日  
七月七日  
七月八日  
七月九日  
七月十日  
七月十一日  
七月十二日  
七月十三日  
七月十四日  
七月十五日  
七月十六日  
七月十七日  
七月十八日  
七月十九日  
七月二十日  
七月二十一日  
七月二十二日  
七月二十三日  
七月二十四日  
七月二十五日  
七月二十六日  
七月二十七日  
七月二十八日  
七月二十九日  
七月三十日

新... (vertical text)

中東人... (vertical text)

丹桂茶... (vertical text)

無別条由頂上之儀候事、

北京人数ハ先例相替段々被仰渡趣

有之、去年十月上京勤方首尾能

相濟、当四月下着被致候由、

一去夏大和江罷登候夏楳船、又者

兼ヶ段親雲上乘船之筈ニ而罷登候馬艦船、

唐漂着楳船ハ船相痛候付売払、右

人数ハ馬艦船江乗合唐船一同致出帆

たる由候処、いまた来着不仕候事、

一五主屋比久筑登之帰帆、夜之九ツ過時分

罷登、左之通持参、

一御靈前江丹桂茶一包雲餅(糕)

二包差上、御焼香仕候事、

一私江怡山院清明小壺一ツ・水砂糖

一重六寸・清明茶一包くり候事、

一去夏楳船ハ砂糖六千斤余差登

候処、右通唐江漂着、藏役具志堅里之子親雲上

内弟山城にや唐船ハ帰帆、同七日

罷出候付、右砂糖之儀相尋候処、

於唐相応之代銀ニ而売払候由、

一為承由申出、頂上之儀与存候事、

一十一日、仲村里之子親雲上明後日出帆之筈ニ而



別而上手ニ而候処、徳川奉公申付候ハ、  
 母ハ内原表之織物・縫物など之奉公  
 随分相勤候由、段々被仰聞候付、此内  
 徳川御列立御出被成候様申上候事、  
 但、徳川子事、当歳二十はかり成候処、  
 其歳輩二者字も相応ニ書、学問も相応ニ  
 相嗜居候間、孫共中師匠共申付候由  
 可然与被思召候由、  
 一十四日、本立寺和尚先日御約束之通  
 徳川子御列立御出被成、先日被仰聞候通  
 徳川無拗御間柄之者候間、とふか奉公  
 申付候へかし、左候ハ、母も内原表織物・  
 縫物など之奉公随分仕度相願候由被  
 仰聞候付、徳川事書物筆跡等相応ニ  
 相嗜、母事も女工上手之由御咄承候間、  
 徳川者孫共中師匠申付、母ハ女共る彼是  
 相頼申答ニ而、別而仕合ニ存申候間、徳川ハ  
 愈明日出勤いたし候様可被仰付旨、  
 申上候事、  
 一十八日、春楮船出帆いたし候事、  
 一廿一日、順風相成左之通出船、  
 池城親方乗船・夏楮船・運漕船二艘

別而上手ニ而候処、  
 母ハ内原表之織物・縫物など之奉公  
 随分相勤候由、段々被仰聞候付、此内  
 徳川御列立御出被成候様申上候事、  
 但、徳川子事、当歳二十はかり成候処、  
 其歳輩二者字も相応ニ書、学問も相応ニ  
 相嗜居候間、孫共中師匠共申付候由  
 可然与被思召候由、  
 一十四日、本立寺和尚先日御約束之通  
 徳川子御列立御出被成、先日被仰聞候通  
 徳川無拗御間柄之者候間、とふか奉公  
 申付候へかし、左候ハ、母も内原表織物・  
 縫物など之奉公随分仕度相願候由被  
 仰聞候付、徳川事書物筆跡等相応ニ  
 相嗜、母事も女工上手之由御咄承候間、  
 徳川者孫共中師匠申付、母ハ女共る彼是  
 相頼申答ニ而、別而仕合ニ存申候間、徳川ハ  
 愈明日出勤いたし候様可被仰付旨、  
 申上候事、  
 一十八日、春楮船出帆いたし候事、  
 一廿一日、順風相成左之通出船、  
 池城親方乗船・夏楮船・運漕船二艘

大和江登御狀扣  
一筆令啓候、弥無異列之面々ニ茂無異  
一条勤務之由珍重存候、私事去年以來  
一日片時之不快迎一切無之、猶以達者  
罷在、蒲戸事正月十七日御書院御  
小性、次良ニも去月七下庫理小赤頭  
被仰付、欣然之至候、猶又宜壽次・仲村  
無別条一門親類衆御安全之御事候間、  
可心安候、去冬已來便毎之細事逐一  
披見、運送馬艦之儀願通蒙御免、  
且年期を不限御有免之段、誠以難有  
仕合御座候、雖然御当地之儀御  
所帯向極々御難洪之御事ニ而、去申年  
御冠船之節同様國中一統出米其外  
諸職人船々反帆迄稅錢被仰付、万民  
至而困窮之御候得者、随分御益筋相成  
候様ニ与之計得可為專一候、最早為差立  
勤向首尾克相濟、代りに番上着次第

大和江登御狀扣  
一筆令啓候、弥無異列之面々ニ茂無異  
一条勤務之由珍重存候、私事去年以來  
一日片時之不快迎一切無之、猶以達者  
罷在、蒲戸事正月十七日御書院御  
小性、次良ニも去月七下庫理小赤頭  
被仰付、欣然之至候、猶又宜壽次・仲村  
無別条一門親類衆御安全之御事候間、  
可心安候、去冬已來便毎之細事逐一  
披見、運送馬艦之儀願通蒙御免、  
且年期を不限御有免之段、誠以難有  
仕合御座候、雖然御当地之儀御  
所帯向極々御難洪之御事ニ而、去申年  
御冠船之節同様國中一統出米其外  
諸職人船々反帆迄稅錢被仰付、万民  
至而困窮之御候得者、随分御益筋相成  
候様ニ与之計得可為專一候、最早為差立  
勤向首尾克相濟、代りに番上着次第

大和江登御狀扣  
一筆令啓候、弥無異列之面々ニ茂無異  
一条勤務之由珍重存候、私事去年以來  
一日片時之不快迎一切無之、猶以達者  
罷在、蒲戸事正月十七日御書院御  
小性、次良ニも去月七下庫理小赤頭  
被仰付、欣然之至候、猶又宜壽次・仲村  
無別条一門親類衆御安全之御事候間、  
可心安候、去冬已來便毎之細事逐一  
披見、運送馬艦之儀願通蒙御免、  
且年期を不限御有免之段、誠以難有  
仕合御座候、雖然御当地之儀御  
所帯向極々御難洪之御事ニ而、去申年  
御冠船之節同様國中一統出米其外  
諸職人船々反帆迄稅錢被仰付、万民  
至而困窮之御候得者、随分御益筋相成  
候様ニ与之計得可為專一候、最早為差立  
勤向首尾克相濟、代りに番上着次第

一廿五日、風午末之間好風吹出、左之通出帆、  
真壁按司御乗船・桃原親方乗船・  
古米船七・八艘

大和江登御狀扣

一筆令啓候、弥無異列之面々ニ茂無異  
一条勤務之由珍重存候、私事去年以來  
一日片時之不快迎一切無之、猶以達者  
罷在、蒲戸事正月十七日御書院御  
小性、次良ニも去月七下庫理小赤頭  
被仰付、欣然之至候、猶又宜壽次・仲村  
無別条一門親類衆御安全之御事候間、  
可心安候、去冬已來便毎之細事逐一  
披見、運送馬艦之儀願通蒙御免、  
且年期を不限御有免之段、誠以難有  
仕合御座候、雖然御当地之儀御  
所帯向極々御難洪之御事ニ而、去申年  
御冠船之節同様國中一統出米其外  
諸職人船々反帆迄稅錢被仰付、万民  
至而困窮之御候得者、随分御益筋相成  
候様ニ与之計得可為專一候、最早為差立  
勤向首尾克相濟、代りに番上着次第

以... 珍味... 致賞味... 老後之樂... 鳥船流着... 此等之一... 委細可申...  
 三月廿四日  
 伊江親方

大御隱居様御内々三味線筆筭御  
 用ニ付差上候処、御喜悅被思召上、縞織  
 丹後二疋・奉書紙一束拝領候由、誠以  
 難有次第喜悅同然之至候、猶又今般  
 御使者今日真壁按司附役三男真壁里之子親雲上、  
 親方御使者桃原親方被仰付候、其外  
 役々ハいまた相濟不申候処、仲村里之子親雲上  
 儀ハ真壁按司御右筆・御与力・御儀者之間  
 相願居候処、何分与未相方付候、相濟  
 次第後便々委可申越候、以上、

役次ニ而帰帆之粧相整候由、大悦不可過之候、  
 且又去冬以来品々惠投、就中茶請盆  
 之儀別而珍敷、好ニ而太分婦迄色々之  
 珍味入付旁以入念、則兄弟中打寄  
 致賞味、座用鎮構之器一入慰ニ相成、  
 老後之樂何より之心入、今感悅候、徳之  
 鳥船流着有之、只今出船之段承、依幸便  
 此等之一左右為可申述如此候、猶後便々  
 委細可申越候、恐々謹言  
 三月廿四日  
 前  
 伊江親方  
 追而從  
 大御隱居様御内々三味線筆筭御  
 用ニ付差上候処、御喜悅被思召上、縞織  
 丹後二疋・奉書紙一束拝領候由、誠以  
 難有次第喜悅同然之至候、猶又今般  
 御使者今日真壁按司附役三男真壁里之子親雲上、  
 親方御使者桃原親方被仰付候、其外  
 役々ハいまた相濟不申候処、仲村里之子親雲上  
 儀ハ真壁按司御右筆・御与力・御儀者之間  
 相願居候処、何分与未相方付候、相濟  
 次第後便々委可申越候、以上、

三月廿四日

室事、去年夏之比る不断下シ有之、  
 手足も不叶ニ罷成、医者浦崎親雲上  
 相頼煎薬・丸薬等相用候付、漸々快方ニハ  
 罷成候へ共、総体身弱元氣も不足ニ相見得、  
 今体ニ而ハ親方帰帆迄ハ相待申間敷与、甚  
 世話ニ存候処、平日保養向をも別而入念、  
 富盛之牛并真鶴不断側ニ詰居、毎日  
 之体式も好之俣相進、夜白心之及孝養  
 を尽候付、去年八・九月比よりハ下シも相止、  
 食事も日増相進ミ、身も肥根氣相付  
 候様ニ相見得候付、念遣之儀ハ無之積ニ而  
 いつれも大悦存居候処、去年十月十二日、  
 日中ハ氣分相勝平日之様夜めし給候  
 最中、与風痰差発氣分悪敷相成、  
 終ニ止氣も取失候付、早速宜寿次親方・  
 仲村親方も罷出、持合之清心丸・蘇合丸  
 杯相用、医者安慶田親雲上・村田里之子親雲上江も  
 追付被罷出、本参等相用段々療治方  
 相働候へ共不相叶、其夜四ツ過時分相果、  
 言語道断之仕合歎入申候、其方ニハ  
 遠路相隔、甚以遺念之筈ニ而親子之長□  
 (虫喰)

以知ニある候付、其時ニハ、  
 以上ノ上候候様、  
 日中ノ事、  
 之方、  
 終ニ、  
 仲村親方、  
 追付、  
 相働、  
 遠路、  
 甚以、  
 遺念、  
 親子、  
 之長

難忍、昼夜可為愁傷候得共、万一及氣(虫喰)等  
大切成勤向間違杯有之候半与、夜白  
念遣之事候間、存在之老父孝養を察シ、  
随分身持之慎入念、大切成勤向無手拔  
精勤、当秋早々帰帆相待居候間、倩  
老父之心的を想予聊大形有之間敷候、  
以上、

三月廿四日

追啓、帳当座比嘉筑登之親雲上事、去月琉球館  
重書役被仰付、仲村里之子親雲上儀も今日真壁  
按司御儀者被仰付、兩人共当夏上国仕候、  
付而ハ其方ニも何歎心得ニ可相成儀も  
可有之与喜悅此事情、猶又其許申越通、  
返上物宰領永松里之子親雲上・古謝里之子親雲上  
帰帆早速被罷出、其方勤向之次第彼是  
委曲承、いづれも安心罷在申候、尤永松二者  
富盛祖母・真鶴ニも為致対顔候、且又  
三男永松子事も申越通父子列參、夫々  
不断罷出奉公方精勤仕候、将又徳之島  
船昨日帰島、夫々如御国許上着可致  
考之由承、昨朝書状頼遣候、彼島船ニ而  
無之、大和名徳之島江下り申答之船御

三月廿四日  
難忍、昼夜可為愁傷候得共、万一及氣等  
大切成勤向間違杯有之候半与、夜白  
念遣之事候間、存在之老父孝養を察シ、  
随分身持之慎入念、大切成勤向無手拔  
精勤、当秋早々帰帆相待居候間、倩  
老父之心的を想予聊大形有之間敷候、  
以上、

当地江流着、右船出帆之段承為頼遣由、尤在所船頭共ハ氣之附尋不承由候、為心得此段申越候、以上、

三月廿六日

覚

一かすてら二箱

但、從大親方様

一雲餅糕五箱

但、從伊江親方御室

右之通親方様江御音物之証迄被御遣候、最前者便船急ニ出帆有之筈之段承候付、御状計相頼置候処、此兩日出帆無之故乍些少被差遣候間、右之趣を以宜可被申上候、此段為可得御意如斯候、以上、

伊集里之子 仲尾次筑登之

知花里之子 渡嘉敷里之子

玉元し 前川里之子親雲上

三月廿九日

伊集里之子

知花里之子

玉元し

三月廿六日

覚

一かすてら二箱

但、從大親方様

一雲餅糕五箱

但、從伊江親方御室

右之通親方様江御音物之証迄被御遣候、最前者便船急ニ出帆有之筈之段承候付、御状計相頼置候処、此兩日出帆無之故乍些少被差遣候間、右之趣を以宜可被申上候、此段為可得御意如斯候、以上、

嘉慶拾八年癸酉  
七月中

一六日、上下屋敷中其外、前川里之子親雲上妻・豊見城親雲上妻  
 下屋敷ニ罷越相慰候事、  
 一昼間者私々錢三拾貫文、庫理方々三拾貫文取合、  
 六拾貫文ニ而まんたう取寄、汁菜相付御馳走  
 いたし候事、  
 一真鶴々御茶請一重、宜寿次・仲村・豊見城・前川・  
 前之前川々茶請一重完持参有之候事、  
 晩者銘々糝取寄給候事、  
 一那覇目くら新垣、近辺江罷登候処、承呼付歌  
 三味線いたさせ候事、

嘉慶拾八年癸酉

七月中

一六日、上下屋敷中其外、前川里之子親雲上妻・豊見城親雲上妻

下屋敷ニ罷越相慰候事、

一昼間者私々錢三拾貫文、庫理方々三拾貫文取合、

六拾貫文ニ而まんたう取寄、汁菜相付御馳走

いたし候事、

一真鶴々御茶請一重、宜寿次・仲村・豊見城・前川・

前之前川々茶請一重完持参有之候事、

晩者銘々糝取寄給候事、

一那覇目くら新垣、近辺江罷登候処、承呼付歌

三味線いたさせ候事、

一喜久里之子内儀も相招候処、母ハ咳氣之由ニ而  
罷出、婦者罷出からいも一台持參、  
伊集里之子内儀も相招候処、不氣色ニ而罷出  
候事、

一濱川子母も相招候付、被罷出、始而相逢緩々  
物語共被致候事、

一四日、当蔵村二才共稽古物出精いたし候企三付、  
今日真壁御殿・豊見城御殿・私宅江会所相立、  
二才共相集手習・学問出精いたし候事、  
一九日、富盛親雲上嫡子たんかあ祝二付、左之通差遣  
候事、

一昆布一折四斤 一酒代銘々

一同日、上原按司御室事此程懐胎、最早産月ニ  
罷成候処、此内ハ痢病いたし草臥も有之候哉、歳も  
四十四ニ罷成、折柄暑氣も強旁世話ニ存候処、今日  
七ツ時分男子平産いたし、親子共別而氣分も相勝り  
候由申来、無此上大慶不斜安堵いたし候事、  
一翌日十日川卸二付、赤子之衣裳仕立用候間、  
私着懸之はかま相讓度由申来候付、着懸之  
木棉はかま相讓候事、  
一此中女子共懐胎之時、手くすり用産前二錢  
貳拾貫文、平産之時三拾貫文差遣候例ニ而候処、

付... 此節ハ五拾貫文差遣候事、

但、此前者右体之時亡室産前ニ拾貫文、  
平産之時式拾貫文差遣候例ニ候処、最早  
私一人ニ差遣候付、本文之通也、

十一日、玉城按司御見廻被下、緩々御咄共申上、うら座之  
掛床二一門和睦伝書候を御覽被成、深く御感心  
被成、且愚筆御懇望之由被仰下候付、老筆見苦候へ共、  
此程御丁嚙被仰下、御断も難申上候間、先寄総体  
宜罷成候時分、右和睦伝書候而懸御目可申由、御約束  
申上候、若失念も可有之哉与、此段相記置候事、  
十三日、御生靈御迎月並帳見合、諸事例式之通  
取行候事、

おりの事

一十四日、晩者故室生靈始而之事ニ而、上下屋敷  
中いづれも菓子持參、焼香被致候事、  
一私者玉子うとん之吸物相手向、焼香いたし、  
いづれも江も馳走いたし候事、

十五日、故岡村里之子親雲上儀、存在中、此方之儀ニ付而者  
彼是入念親切ニ取計得、今更無忘却忝存候付、  
左之通相手向焼香被致度差遣候事、  
一黒砂糖一重八寸  
但、何歟菓子共相調差遣申管候処、今日昼時分  
与風存付其儀不相叶候付、有合之品差遣候事、

十六日、三男故阿波根里之子親雲上事、存在中私奉公  
入念相勤、就中庫理方惣聞相頼候処、彼是取計得  
宜勝手筋三相成候儀共段々有之、今更無忘却  
忝存候処、今日十三年回忌相弔候由承、左之通差遣  
候事、

一香酒代 一赤むしかう一重

同日、宜寿次殿内父母様御跡御三年忌内者、文中  
御菓子差上御焼香仕、御三年忌以後ハ御香・  
御酒代差上御焼香仕来候処、適年ニ一度御招請  
之筋候処、御香御酒代迄差上候而者何共難黙止  
候間、文中一度ハ御菓子差上御焼香仕候而ハ

何様候哉与、仲村親方相談いたし候処、私所存之通  
同意之由申候付、酉時分左之通持參差上御焼香  
仕候事、

一御茶一包半山 一きんひん御菓子一重

但、御菓子之儀何歟宜敷菓子相調  
差上申答候処、今日昼時分与風存出候次第  
二付、輕菓子差上、来年者兼而其心得可仕事、

一十七日、天王寺々文中段々御さんたい之御品々被下候  
御礼、四ツ後參上仕申上候考之由、御使之小僧江沙汰いたし  
候処、其段長老被聞召今朝私起立不申内長老  
御見廻、今日四ツ過時分御寺江參上仕答之由、小僧々被聞召、





一 親方 御前 奉後 皇 奉後 皇 奉後 皇

一 真ぬり菓子入三重二菓子入付出候事、  
一重あんきんひん 内間名到来 一重龍眼もち

一 同日、夜前七ツ時分、於識名御殿具志堅按司御安産、  
御男子御誕生被遊候由奉承知、恐悦至極奉存候、  
則登城御祝儀申上度奉存候処、足之痛

有之其儀不相叶候付、かま戸私名代相兼登城、  
又者識名御殿江も参上、

御三所様御祝儀奉申上候事、  
一 義村御殿・宜野湾御殿・美里御殿・  
読谷山御殿、前川里之子親雲上私名代を以御祝儀申上

候事、  
一 真鶴も次良あん使ヲ以

御三所様江御祝儀申上候事、  
一 廿七日、先日御出被成候御礼之心入二而、天王寺・本立寺

御見廻いたし、直下屋敷ニ罷越候処、富盛うし・  
妹むたしや・真つる・豊見城むたしやも子共相列

西過時分罷越候付、相慰夜入候而罷帰候事、  
一 妹むたしやより米一重、真つる茶請一重持参、  
折節月も無之夜二而早々罷帰候事、

去廿四日 伍徳院・万祥院御出、品物之被下候御礼  
 之心入三而御見廻いたし候処、伍徳院・本立寺御招  
 緩々御咄いたし、夜めし共御馳走有之候事、  
 一万祥院江御相談申候者、孫かま戸事相中組合、  
 下屋敷ニ而久米村亀島里之子親雲上相頼学問出精  
 いたし候処、下屋敷之儀、最早親方帰帆前ニ罷成  
 候付、折々女共相列慰ニ罷越申考候処、右通ニ而  
 差支候間、広徳寺うら座御借被給度由、万祥院江  
 御相談いたし候処、うら座ハ狭有之、其上当時二才共  
 二・三人うら座かり候而稽古物いたし候間、残念ながら  
 断之由被申聞候事、  
 八月申

八月中

一朔日、前川里之子親雲上使を以具志堅按司御安否御尋  
 申上、序ながら  
 上々様御機嫌伺をも奉申上、按司様江者はなふる之  
 御菓子差上候処、御返詞ニ  
 上々様奉伺御機嫌、且具志堅按司江者御安否御尋、御菓子  
 差上、御喜悦ニ被思召上候段奉承知候事、  
 一御菓子こひきこん二百二十一ツ、盛合、風呂敷ニ而包  
 御辻うそひ候事、  
 一前川江者御菓子御茶被成下候由、  
 一二日、下屋敷ニ而本立寺・天王寺御出会、囲碁共ニ而



今下屋敷罷越候序、知花江立寄親方江申入候者、  
 当分御家普請ニ付而者、大分之物入可有之与相察候、  
 夫ニ付、早々合力いたし度所存有之候へ共、此方ニも  
 当時手迫之砌ニ而、所存之通不相叶、輕少ながら  
 私・忝兩人ニ而、少し之補助ニも相成候へかし与、錢  
 三百貫文進候段申候付、無存懸志之程忝(思カ)厚  
 礼謝承候事、  
 一右相濟、昨日天王寺の菓子色々被下候付、右御礼  
 御見廻いたし候処、隱居江御越不懸御目候付、  
 小僧江申置直下屋敷江罷越、酉頭時分帰宅  
 いたし候事、

但、次良も相列罷越候事、

一下屋敷ニ召置候分類故事要語、得与見申度  
 存持帰候事

一五日、川平親雲上見廻被申聞候者、先年当地頭代  
 西江親雲上川平掟之時、西江ハ奥平御方旅供被申付、  
 帰帆迄之間、故平良にや与申者足役被仰付、四年  
 ほと相勤候処、作得不納有之、下知役・さはくり共糺方  
 申出候付、於島被相糺候処、川平村ハ無滞差出候処、  
 足役故平良にや掠め候次第別条無之候付、故平良  
 にや男子ハ年府納之筋願出候処、右男子相對  
 二者最通申問敷候間、男子ハ村所江相納、村所ハ

年納いたし候筋被申付度旨、下知役・檢者江度々  
 申出候へ共、為何返答も無之、込入申仕合候間、  
 乍憚私右之趣申付度由承候付、仮惣地頭  
 前川里之子親雲上江委細相談可致候、左候ハ、私も相考  
 何様ニも申付筈之由、相答候事、  
 一年数相へり候付而者、順々利付いたし候而ハ、  
 重高二罷成筈候間、本はかり堅固相納候ハ、  
 利者用捨いたし候而も相濟候由、  
 一六日、次良事幼少相素立最早十四歳罷成、  
 程比も相応ニ相成候付、今日吉日ニ而片髮詰させ、  
 諸事入料ハ左之通私自物ニ而相調させ候事、  
 一さうめん之吸物、宜寿次・仲村江者一重ツ、湯次  
 汁相添進上させ候事、  
 一出合之士方童子共其外供下女共迄、さうめん  
 (之) 吸物馳走いたし候事、  
 一宜寿次・仲村銘々其外末々迄酒代被下候付、  
 拝受させ候事、  
 一簪・添さし・まわし買入くり候事、  
 一同日、此程長々雨ふり不申、世上驚人候処、昨日  
 昼時分小雨ふり出し、今日昼時分半時はかり  
 大雨ふり、世上之悦無限候事、  
 一同日、豊見城親雲上次男かめ・天願里之子女子真加戸

一さうめん・さうめん・宜寿次・仲村江者一重ツ、湯次  
 汁相添進上させ候事、  
 一出合之士方童子共其外供下女共迄、さうめん  
 (之) 吸物馳走いたし候事、  
 一宜寿次・仲村銘々其外末々迄酒代被下候付、  
 拝受させ候事、  
 一簪・添さし・まわし買入くり候事、  
 一同日、此程長々雨ふり不申、世上驚人候処、昨日  
 昼時分小雨ふり出し、今日昼時分半時はかり  
 大雨ふり、世上之悦無限候事、  
 一同日、豊見城親雲上次男かめ・天願里之子女子真加戸

一 扇一本くり候事

但、豊見城・天願をさうめん一重ツ、到来有之候、

一 七日、早朝老人上運天親雲上被罷出被申聞候者、

孫上運天筑登之事、御茶道役二而此ほと生花・

立花稽古いたし、此内真草之立花二瓶分仕合し

置候間、慰にも可相成与存候間、下屋敷家ニ置合

見し被申度由被申候付、御心入之程別而忝

存申候、久々ニ立花見不申、別而仕合ニ存候間、

弥立合候様御申付可給由申入候事、

一 右三付、本立寺・天王寺・五徳院・蓮華院・

瑞祥寺・万祥院長老衆、又者宜寿次親方・

仲村親方御出、立花御覽可被成由招上候付、八ツ後いつれも

御出、立花御覽緩々御咄いたし候事、

一 万祥院ハ無扱用事、蓮華院ハ御他所

之由ニ而御出無之、

一 昼間ハまんたう取寄、汁菜相付後とうふ

之吸物御馳走いたし候事、

一 茶請盆ニ菓子・取肴など盛合、蜜林酒有合

二 付差出候事、

一 立花立し上運天筑登之江、和扇子一本・刻

たはく五折進候事、

瑞祥寺・萬祥院長老衆、又者宜寿次親方、仲村親方御出、立花御覽可被成由招上候付、八ツ後いつれも御出、立花御覽緩々御咄いたし候事、一 万祥院ハ無扱用事、蓮華院ハ御他所之由ニ而御出無之、一 昼間ハまんたう取寄、汁菜相付後とうふ之吸物御馳走いたし候事、一 茶請盆ニ菓子・取肴など盛合、蜜林酒有合二 付差出候事、一 立花立し上運天筑登之江、和扇子一本・刻たはく五折進候事、

一昨日、下屋敷家子、上運天筑登之立花立合  
置候付、上下屋敷中女性方孫共相列罷出、立花  
見物いたし緩々相慰、夜入候而罷帰候事、  
一此中上下屋敷人数慰ニ罷越候節者、私方  
まんだう取寄馳走いたし、夜食者銘々取寄  
候例候処、今日者与風相企候儀ニ而、茶々請差出、  
いつれも夜めしハ帰宅ニ而給候事、  
一同日、下屋敷ニ罷居候内、入相時分保栄茂里之子親雲上  
罷出承候者、御近習国頭里之子親雲上被罷出被申聞候者、  
来ル十七日、御男子様御髮撫、夫ニ付御門御出立之時、  
私御行逢之勤被仰付

御思召ニ而候、何ぞ差支之儀無之御請申上候哉、御近習  
衆方内々為承合為被罷出由被申聞候付、私者  
下屋敷江罷越居候間、右之趣私江相達候付、何分  
可申上由申入候付、為被罷帰由承、相考候処、如何様  
私事長命果報之筋ヲ以右通難有  
御思召も可有御座候へ者、御請ニ而相勤候方可然与  
相決、則保栄茂御近習方江差登、御思召之  
次第内々奉承知、冥加至極難有次第二候間、  
被仰付候ハ、御請申上相勤申答候段、申上させ候事、  
一十日從  
上様之上使御書院当勝連里之子親雲上御出、来ル十七日

一昨日、下屋敷家子、上運天筑登之立花立合  
置候付、上下屋敷中女性方孫共相列罷出、立花  
見物いたし緩々相慰、夜入候而罷帰候事、  
一此中上下屋敷人数慰ニ罷越候節者、私方  
まんだう取寄馳走いたし、夜食者銘々取寄  
候例候処、今日者与風相企候儀ニ而、茶々請差出、  
いつれも夜めしハ帰宅ニ而給候事、  
一同日、下屋敷ニ罷居候内、入相時分保栄茂里之子親雲上  
罷出承候者、御近習国頭里之子親雲上被罷出被申聞候者、  
来ル十七日、御男子様御髮撫、夫ニ付御門御出立之時、  
私御行逢之勤被仰付

御思召ニ而候、何ぞ差支之儀無之御請申上候哉、御近習  
衆方内々為承合為被罷出由被申聞候付、私者  
下屋敷江罷越居候間、右之趣私江相達候付、何分  
可申上由申入候付、為被罷帰由承、相考候処、如何様  
私事長命果報之筋ヲ以右通難有  
御思召も可有御座候へ者、御請ニ而相勤候方可然与  
相決、則保栄茂御近習方江差登、御思召之  
次第内々奉承知、冥加至極難有次第二候間、  
被仰付候ハ、御請申上相勤申答候段、申上させ候事、  
一十日從  
上様之上使御書院当勝連里之子親雲上御出、来ル十七日

一 御男子様御髪撫、始而弁才天堂・宜野湾御殿御出  
 被成候付、御行逢之勤私江被仰付候段奉承知、難有  
 次第奉存候、右三付左之通御取持仕候事、  
 一 御たはく盆・御茶上、御吸物三ツ御三献上、御盃  
 頂キ、御菓子・御茶差上候事、  
 一 右相済御返詞之趣ハ、無存懸御行逢之勤  
 被仰付、冥加難有次第奉存候、何分ニも成合候様  
 宜被仰付可被下由、申上候事、  
 一 右三付 上使被成下候御請御拜も、御免被仰付段  
 をも奉承知、重畳難有次第奉存候事、  
 一 十一日、例之通左之人数先樋川参拜いたし、一門中  
 男女観音堂江罷出、みはな・御酒頂キ、御水撫候事、  
 一 先樋川江参り候人数、前川親雲上妻・妹むたしや  
 仲村里之子親雲上妻・豊見城親雲上妻・勝連御殿真加戸  
 其外垣花家内人数も一同罷下候事、  
 一 伊江御殿・奥平御人数ハ、伊江按司御伯祖母御  
 百ヶ日内ニ而、御出不被成候付、御殿此方差出し候  
 まんたう、揃人数持参之茶請八寸重二次ニ  
 盛合、御殿・奥平江もたせ上候事、  
 一 豊見城夫婦共相列罷出、青豆砂糖煮ニ而持参、  
 多人数江馳走有之候事、  
 一 平小之ねはあ前も焼酎持参罷出候事、

一 惣志喜人数ハ、次男真志喜シ不幸四十  
九日内ニ而、不罷出候事、

一 十五日、来ル十七日御男子様御髮撫御祝ニ付、御右筆  
渡嘉敷里之子親雲上御使ヲ以御呼御座ニ付、左之通御馳走、  
御返詞申上候事、  
一 雲餅糕御菓子上 五ツかけ盆

一 御呼之御拜ハ、十七日登城可申上旨、承知仕候事、  
一 十七日、御男子様御髮撫ニ付、九ツ頭時分朝衣冠ニ而  
登城、諸事左条之通相勤、夜之四ツ過時分退城仕候  
事、

一 御呼之御拜、奉行玉城親方御取次申上候事、  
一 八ツ過時分、右掖門北之方江罷出、御乳母御男子様  
抱上御通行之時分、御近差寄、けふは  
御目出たい事たやへる等、御祝言申上候事、  
但、前川里之子親雲上・佐久真し・仲村し・草履取壺人  
私後江改候事

一 右相濟御書院江参上、奉行玉城親方之  
御取次、御行逢之勤御嘉例之通相勤候段、  
御首尾、且又御髮撫・御名付之御祝儀申上  
候事、

一 宜野湾王子・本部王子・読谷山王子・今帰仁按司・  
私・与那原親方・小禄親方此御人数御相伴被仰付  
候事、

一 惣志喜人数ハ、次男真志喜シ不幸四十  
九日内ニ而、不罷出候事、

一 十五日、来ル十七日御男子様御髮撫御祝ニ付、御右筆  
渡嘉敷里之子親雲上御使ヲ以御呼御座ニ付、左之通御馳走、  
御返詞申上候事、  
一 雲餅糕御菓子上 五ツかけ盆

一 御呼之御拜ハ、十七日登城可申上旨、承知仕候事、  
一 十七日、御男子様御髮撫ニ付、九ツ頭時分朝衣冠ニ而  
登城、諸事左条之通相勤、夜之四ツ過時分退城仕候  
事、

一 御呼之御拜、奉行玉城親方御取次申上候事、  
一 八ツ過時分、右掖門北之方江罷出、御乳母御男子様  
抱上御通行之時分、御近差寄、けふは  
御目出たい事たやへる等、御祝言申上候事、  
但、前川里之子親雲上・佐久真し・仲村し・草履取壺人  
私後江改候事

一 右相濟御書院江参上、奉行玉城親方之  
御取次、御行逢之勤御嘉例之通相勤候段、  
御首尾、且又御髮撫・御名付之御祝儀申上  
候事、

一 宜野湾王子・本部王子・読谷山王子・今帰仁按司・  
私・与那原親方・小禄親方此御人数御相伴被仰付  
候事、

度旨、御伺相濟候段、奉行玉城親方ら奉  
承知候事、

上様御出座被遊筈候処、御左之御かた御痛有之  
候付、出御不被遊段、奉承知候事、

一 御相伴御人数、入相時分御書院御座着座、諸事  
御次第書之通相濟、四ツ過時分御拜御暇乞申上、  
退城仕候事、

一 十八日、伊江按司御祖父十三年御回忌・御親父七年  
御回忌御弔二付、四ツ頭時分参上、御菓子・御酒代差上、  
御馳走仕候事、

一 一かま戸・次良も御呼二付、相列参上いたし候事、  
一 廿一日、下やしきニ罷越、本立寺催上候処、此間下屋敷  
ニ而度々御出会被成候間、今日者寺江罷出度、左候ハ、  
天王寺・五徳院も御招被成由被仰聞候付、八ツ時分  
孫次良召列参上いたし、緩々御咄、左之通御馳走  
有之候事、

一 一伍徳院・村吉筑登之親雲上も御出、緩々御咄いたし候事、  
一 青豆砂糖煮ニ而吸物出、晩者茶めし御馳走  
有之候事、

一 供兩人ニも同前御馳走為有之由、  
一 廿二日、識名里之子親雲上事、親方ら旅中留王居相頼置  
候付而ハ、毎日罷出彼是下知方可致之処、怠懈ケ間敷

... 山城里之子ヲ以相談させ候処、自分も親方頼之趣  
無忘却随分出精可相勤所存候得共、家内及困窮ニ  
衣裳もしち入着物も無之、且先様家内統方も当分  
之為体ニ而者最通不申候付而、此前之通与那原江  
引越相宮候方可宜哉、彼是世話之儀共差屯所存  
之俣難取計、怠懈いたし候由被申候段、山城を承  
相考候処、留主中彼是入念相勤候ハ、親方帰帆之上  
厚礼謝申入筈候処、親方頼入之所存も忘却いたし、  
諸事不行届儀共有之候而者、自分之為にも不罷成  
筈候、親方も近々帰帆仕筈候間、其内者何事も打捨留主  
居之職分相立候様、出精被致候方身之為にも可相成与存候間、  
明日を出勤可被致旨、山城ヲ以申達候付、一々  
尤之儀ニ候間、明日を出勤いたす筈之由、返答  
承候事、

... 一家内及困窮、衣裳もしち入着物も無之由、  
承候付、錢百貫文見次差遣候処、自分ハ  
他出ニ而内儀江相渡候処、別而難有由厚  
礼承候事、

... 廿六日、左之人数下やしきニ招上、甚会緩々  
御咄いたし候事、  
一本立寺 伍徳院 瑞祥寺 万祥院  
仲村親方 村吉筑登之親雲上

仲村親方 村吉筑登之親雲上

一 瑞祥寺長老、年回所御出被成候由二而、菓子色々一包被下候付、いつれも江も御馳走いたし候事、一孫かめ・次良相列罷越、宮仕させ候事、  
 一 庖丁比嘉里之子親雲上相頼、都而庫理方調申付候事、  
 一 廿七日、伍徳院長老を御扣有之、八ツ時分罷出、本立寺・天王寺も御出、囲碁共二而緩々御咄、入相時分帰宅、  
 一 吸物出、昼間まんたう、晩粥御馳走有之候事、  
 九月中

一 朔日、祝月又者親方帰帆月二而、左之人数祈願所参詣いたし、於家中軽く相祝候事、但、女共旅をうとり三へんいたし候事、  
 一 宜寿次親方 仲村親方 私 天願里之子親雲上 願人数  
 一 豊見城親雲上 与儀筑登之親雲上 仲本里之子親雲上  
 一 保栄茂里之子親雲上 知花里之子 那覇儀間筑登之  
 一 其外勝連按司始童子共  
 一 宜寿次妹むたしや 豊見城親雲上内儀 仲村里之子親雲上内儀  
 一 於弁之嶽いつれも茶々請・まんたう馳走いたし

山本

老人上運天筑登之親雲上相招、仲村江私同心ニ而罷出、  
宜寿次親方も追々被罷出、銘々酒代進候而  
千餅之菓子・吸物一ツ馳走有之、祝候而  
皆々私宅江相列罷帰候事、

一願人数私宅江罷帰、休馳走いたし、晩者  
手引一ツ之料理馳走いたし候事、

一三日、九ツ時分下屋敷江罷越、本立寺・天王寺・  
伍徳院催上、碁打銘々御咄仕考ニ而、本立寺江  
使上候処、今日者於御寺ニ無扨御用事有之、此方江ハ  
御出難被成候、寺江罷出候ハ、別而仕合ニ候間、とふか寺江  
罷出度由、御返詞有之候付、八ツ時分御寺江罷出、  
緩々御咄、入相時分帰宅、

一天王寺・伍徳院・村吉筑登之親雲上追々御出、  
囲碁共ニ而緩々御咄いたし候事、

一夜前紙焼ニ而、もち有合ニ付、下屋敷ニ而御馳走  
いたし度由存、煮物皿相付持越候様申付置  
候処、御寺江罷出候付、七ツ時分御寺江持来  
候付、いづれも江御馳走いたし候事、

一さうめん之吸物・夜めし御馳走有之候事、  
一彼岸花与申珍敷花一鉢、長老被下候事、  
一孫次良も相列参上いたし候事、

候事、

- 一老人上運天筑登之親雲上相招、仲村江私同心ニ而罷出、  
宜寿次親方も追々被罷出、銘々酒代進候而  
千餅之菓子・吸物一ツ馳走有之、祝候而  
皆々私宅江相列罷帰候事、
- 一願人数私宅江罷帰、休馳走いたし、晩者  
手引一ツ之料理馳走いたし候事、
- 一三日、九ツ時分下屋敷江罷越、本立寺・天王寺・  
伍徳院催上、碁打銘々御咄仕考ニ而、本立寺江  
使上候処、今日者於御寺ニ無扨御用事有之、此方江ハ  
御出難被成候、寺江罷出候ハ、別而仕合ニ候間、とふか寺江  
罷出度由、御返詞有之候付、八ツ時分御寺江罷出、  
緩々御咄、入相時分帰宅、
- 一天王寺・伍徳院・村吉筑登之親雲上追々御出、  
囲碁共ニ而緩々御咄いたし候事、
- 一夜前紙焼ニ而、もち有合ニ付、下屋敷ニ而御馳走  
いたし度由存、煮物皿相付持越候様申付置  
候処、御寺江罷出候付、七ツ時分御寺江持来  
候付、いづれも江御馳走いたし候事、
- 一さうめん之吸物・夜めし御馳走有之候事、
- 一彼岸花与申珍敷花一鉢、長老被下候事、
- 一孫次良も相列参上いたし候事、

一、八日、例年之通与儀里之子親雲上使ヲ以、御中門

女性衆御取次、

上々様奉伺御機嫌、散砂糖献上仕候処、御喜悅

被思召上候段御返詞被成下、与儀ハ御近習座江

被招呼、松風・花ほうる之御菓子・御茶被成下候由、難有

次第二奉存候事、

一、具志堅按司様江も差上候而何様候哉与、兼而

慶世村親雲上得差図候処、弥差上候而可然由

有之、差上候事、

上様・野嵩按司加那志様・具志堅按司ハ、識名御殿江被遊

御座候付、彼御殿江被差上候間、移ハ此方ヲ請取

候様被申付候由、

上々様江者八寸五分堆錦重箱二七斤式合、

具志堅御殿江八寸重箱五斤差上候事、

御残差上候御人数左記

美里王子 饒波按司加那志 宜寿次 仲村

此方御靈前 真南風按司 知念御前 知花

御前

但、此方御靈前・宜寿次御靈前・仲村之靈前

私江者七寸重、余者八寸重

一九日、節句又者親方婦帆月ニ罷成候付、左之

御人数相招祝候事、

一 上原按司 宜寿次親方 仲村親方  
 知花親方 内間親雲上 富盛親雲上  
 豊見城親雲上 老人上運天筑登之親雲上 老人  
 富盛里之子親雲上 其外上下屋敷中人数  
 女子共相列、豊見城親雲上内儀子共  
 一次男内間里之子内儀始而罷出候付、縮手掛  
 (老カ) □ツ・多葉粉五把相讓候事、  
 一 銘々到来物有之候付、別冊ニ相記候事、  
 一 浦崎里之子親雲上御母相招候処、不快ニ而御出無之、  
 嫡子浦崎・次男浦崎内儀罷出、左之通  
 持参有之候事、  
 御母  
 一二色むしかう一重 次男浦崎内儀  
 一あんもち一重

一 二色むしかう一重 次男浦崎内儀  
 一あんもち一重  
 一 吸物四ツ・硯ふた・焼酎出、晩ハ手引一ツ・湯  
 なます合物御馳走いたし候事、  
 一 十一日、酉時分知花物見江罷出、人々往来見物  
 いたし度存、うし・真つる江其段申聞候処、  
 同意之由申候付、此段案内させ罷出候処、追々  
 宜寿次親方・仲村親方も被罷出、物見江罷出  
 人見物いたし、本宅ニ而緩々物かたりいたし、  
 与風之事候処、吸物二ツ・夜めし迄馳走  
 有之、夜之四ツ過時分罷帰候事、  
 一 十三日、此比足不叶有之、保養之為孫次良

本立寺・本立寺御見廻、兼而宜寿次  
月見催有之、夜飯後ハ宜寿次江罷出月見いたし、  
私事些腹合あしく有之、先達而罷帰  
候処、粥煮物相付到来有之候事、  
一本立寺ニ而暫御咄いたし、たす砂糖煮ニ而  
御馳走有之候事、

一本立寺長老、今日ハ御隙ニ而御さひしく候間、  
緩々御咄被成度由被仰聞候処、今晚者  
宜寿次月見之催有之、且下やしきニ  
用事有之、一刻罷越不申候而不叶候処、  
其段御断申上、下やしきニ罷越候事、

一先日本立寺江罷出居候内、御弟子亭坊主四ツ成  
童子被列參、今日吉日ニ而此童子  
被相育由承、今日も吉日ニ而此童子坊主ニ  
成候由ニ而亭被列參候付、和扇子一本楊木  
(さか)  
□し一ツ取寄くり候事、

一十五日、勝連按司母々上下屋敷中人数相招  
候付、皆々罷出多人数ニ而候処、心入之吸物三ツ、  
晚結構之料理馳走有之、月能候而緩々  
相慰、夜之九ツ時分罷帰候事、  
一宜寿次親方・仲村親方・野国親方も被罷出、  
緩々物かたりいたし候事、

幸地親方御夫婦も招請いたしたる由、

親方ハ齒之痛有之不被罷出、御室者御出  
懸御目、先日丹後島差上候御札共被仰聞  
候事、

一私ニ二しきむしかう二くしき、宜寿次・  
仲村ヲ茶請一重ツ、御持参いたし候事、

一十四日、護得來按司島御知行御元服御拜被成、  
御祖母様思召ヲ以、私事長命果報人ニ而  
候間、相似ニ此方江も御見廻被成候様被仰付、兼而  
護得來里之子御使ヲ以案内有之、奉待候処、  
御城御勤相濟直ニ此方江御出被成候付、左之通  
御取持仕候事、

一御煎茶上、盃立・肴立・御吸物三ツ上、御取替  
いたし、私歳之果報御あやかり之由被仰聞  
候付、祝候而三本物入扇子一箱・愚筆寿之  
字一枚差上候事、

一十六日、吉日ニ而左之人数普天間参詣いたし、  
諸事例之通相濟、夜入候而罷歸候事、

一此方かまと・次良・前川うし・樽・惠樽、  
宜寿次ハ妹むたしや・まかと・龜・山戸、仲村ハ  
真つる・仲村し・仲村里之子・勝連御殿真加戸・  
豊見城親雲上夫婦

一幸地親方御夫婦も招請いたしたる由、

親方ハ齒之痛有之不被罷出、御室者御出  
懸御目、先日丹後島差上候御札共被仰聞  
候事、

一幸地親方御夫婦も招請いたしたる由、

親方ハ齒之痛有之不被罷出、御室者御出  
懸御目、先日丹後島差上候御札共被仰聞  
候事、

一私ニ二しきむしかう二くしき、宜寿次・  
仲村ヲ茶請一重ツ、御持参いたし候事、

一十四日、護得來按司島御知行御元服御拜被成、  
御祖母様思召ヲ以、私事長命果報人ニ而  
候間、相似ニ此方江も御見廻被成候様被仰付、兼而  
護得來里之子御使ヲ以案内有之、奉待候処、  
御城御勤相濟直ニ此方江御出被成候付、左之通  
御取持仕候事、

一御煎茶上、盃立・肴立・御吸物三ツ上、御取替  
いたし、私歳之果報御あやかり之由被仰聞  
候付、祝候而三本物入扇子一箱・愚筆寿之  
字一枚差上候事、

一十六日、吉日ニ而左之人数普天間参詣いたし、  
諸事例之通相濟、夜入候而罷歸候事、

一此方かまと・次良・前川うし・樽・惠樽、  
宜寿次ハ妹むたしや・まかと・龜・山戸、仲村ハ  
真つる・仲村し・仲村里之子・勝連御殿真加戸・  
豊見城親雲上夫婦

一幸地親方御夫婦も招請いたしたる由、

親方ハ齒之痛有之不被罷出、御室者御出  
懸御目、先日丹後島差上候御札共被仰聞  
候事、

一 宜野湾御殿も、王子様御始御女性方も普天間

御参詣ニ御越被成、右之段被聞召上、九年母

百三十ツ、冬瓜二・庭鳥二羽御目録被成下、

則かま戸参上御礼申上候由承候処、翌十

七日浜川里之子御使ヲ以右品御持せ上口候付

則山城里之子差遣御礼申上候事、

附、右之段御取次申上候処、御礼ニ者不及由

候処、近比為入念儀ニ被思召上候、親方旅

ニ付而者、私もさひしく体罷居等二而、宜野湾

御下屋敷ニ御招相慰させ度、此ほと御含

御座候処、御差支之儀有之及延引候、

年明候ハ、早々御扣被成、思召之段承知

いたし、誠ニ御深切之至奉存候、

同日、明十七日八重山島頭官良親雲上饒別之約束

仕置候処、若文字玉代勢にや使ヲ以承候者、

此前者時々血痰いたし候処、快罷成去ル十五日二者

見廻罷登候処、明日者饒別ニ被招呼、弥

罷出御礼可申上覚悟ニ候処、夜前者猶又血痰

いたし、明日者難罷出候間、乍残念断之由承候付、

私相逢病氣之様子委敷相尋、明日者

緩々相かたらへ申覚悟ニ候処、右通無是非

事候間、自然出帆余り有之、病氣快罷成候ハ、

一 宜野湾御殿も、王子様御始御女性方も普天間  
御参詣ニ御越被成、右之段被聞召上、九年母  
百三十ツ、冬瓜二・庭鳥二羽御目録被成下、  
則かま戸参上御礼申上候由承候処、翌十  
七日浜川里之子御使ヲ以右品御持せ上口候付  
則山城里之子差遣御礼申上候事、  
附、右之段御取次申上候処、御礼ニ者不及由  
候処、近比為入念儀ニ被思召上候、親方旅  
ニ付而者、私もさひしく体罷居等二而、宜野湾  
御下屋敷ニ御招相慰させ度、此ほと御含  
御座候処、御差支之儀有之及延引候、  
年明候ハ、早々御扣被成、思召之段承知  
いたし、誠ニ御深切之至奉存候、  
同日、明十七日八重山島頭官良親雲上饒別之約束  
仕置候処、若文字玉代勢にや使ヲ以承候者、  
此前者時々血痰いたし候処、快罷成去ル十五日二者  
見廻罷登候処、明日者饒別ニ被招呼、弥  
罷出御礼可申上覚悟ニ候処、夜前者猶又血痰  
いたし、明日者難罷出候間、乍残念断之由承候付、  
私相逢病氣之様子委敷相尋、明日者  
緩々相かたらへ申覚悟ニ候処、右通無是非  
事候間、自然出帆余り有之、病氣快罷成候ハ、

御出度由、返答いたし候事、

十九日、親方帰帆前罷成候付、本立寺長老

御頼祈禱御勤被成候事、

但、伍徳院も読経被成、御心入忝存候、右相濟私

かま戸御拜仕候事、

一右相濟、囲碁共ニ而緩々御咄いたし候考ニ而、

左之人数兼而招上候事、

本立寺・伍徳院・瑞祥寺ハ御出被成、

天王寺・蓮華院・村吉筑登之親雲上ハ御不快、

又者無扱用事有之由ニ而御出無之候、

但、宜寿次親方・仲村親方・嵩元親雲上も

相招被罷出候、

一御出被成儀ニ付、さりとうふ・茶上、読経相濟

吸物上、焼酎・硯ふた・長硯ふた・井□など

出、昼間合もきニ小平相付、晩手引

一ツ之料理・間之吸物四ツ・間之菓子

其外膳部之通御馳走いたし候事、

一天王寺ハ御出無之候付、合もち料理

もたせ上候事、

一翌廿日、山城里之子差支、左之通品物差上

候事、

御出度由、返答いたし候事、

御出度由、返答いたし候事、  
十九日、親方帰帆前罷成候付、本立寺長老  
御頼祈禱御勤被成候事、  
但、伍徳院も読経被成、御心入忝存候、右相濟私  
かま戸御拜仕候事、  
一右相濟、囲碁共ニ而緩々御咄いたし候考ニ而、  
左之人数兼而招上候事、  
本立寺・伍徳院・瑞祥寺ハ御出被成、  
天王寺・蓮華院・村吉筑登之親雲上ハ御不快、  
又者無扱用事有之由ニ而御出無之候、  
但、宜寿次親方・仲村親方・嵩元親雲上も  
相招被罷出候、

御出度由、返答いたし候事、  
十九日、親方帰帆前罷成候付、本立寺長老  
御頼祈禱御勤被成候事、  
但、伍徳院も読経被成、御心入忝存候、右相濟私  
かま戸御拜仕候事、  
一右相濟、囲碁共ニ而緩々御咄いたし候考ニ而、  
左之人数兼而招上候事、  
本立寺・伍徳院・瑞祥寺ハ御出被成、  
天王寺・蓮華院・村吉筑登之親雲上ハ御不快、  
又者無扱用事有之由ニ而御出無之候、  
但、宜寿次親方・仲村親方・嵩元親雲上も  
相招被罷出候、

不立寺

唐茶家一ツ 一煎茶々わん十

刻たはこ七折

但、布施銭拾貫文

伍徳院

一和茶家一ツ 一刻たはこ七折

廿一日、勝連按司母を承候者、蓮小堀之西之方江

物見しつらへ景色克候付、罷出相慰候様催有之、

八ツ時分罷出、物見ニ而人々往来なと見物いたし、

酉過時分罷歸候事、

廿二日、先日奥平親方被罷出被申聞候者、最早

親方帰帆も近寄、徒然ニ可罷居候間、今日御近□之

長老衆御同心ニ而罷出度、左候ハ、那覇

上江洲筑登之親雲上・宮古島大浦与人相招、碁打せ

見物させ度由、是者仕合之事候間、弥可罷出由

約束いたし、今日本立寺・伍徳院・瑞祥寺・万

祥院御同伴ニ而罷出、困甚見物緩々御咄

いたし、四ツ過時分罷歸候事、

一吸物数々・取肴・とんぶり共出、昼間ハ合もち小平

相付、晩者二汁一菜之結構之料理

かすてら・花ぶる之菓子共重箱ニ盛合

出、段々入念たる御馳走有之候事、

一松風之菓子九十切、こひきくんニ積持参

与をいふ事

下様有は唐船出帆のりし候事  
廿五日、親方帰帆前罷成、私始家中人数  
昼夜持兼さひしく体罷在候付、左之人数  
心入ヲ以いつれも下やしき江罷出、遊<sup>(山カ)</sup>之催  
有之、八ツ時分いつれも相揃緩々相慰、夜之  
八ツ時分罷帰候事、

上原按司 宜寿次親方 仲村親方  
内間親雲上 富盛親雲上 内間里之子親雲上  
豊見城親雲上 父天願里之子親雲上 宜寿次家内人数  
仲村家内人数 知花親方御前

内間親雲上家内人数 上原御殿御家内人数  
豊見城親雲上内儀子共 喜久里里之子母  
伊集里之子内儀 喜久里里之子内儀  
大工廻し母 玉城はあ前 平小之ねはあ前  
右御人数 八寸重一組、又者まんたう・茶請  
など段々御持参有之、別冊三相記候、  
一座構茶之湯此方下人数、膳等ハ是<sup>(出カ)</sup>相<sup>□</sup>  
候事、

一茶請・きんひん一重・ノ物一重差出候事、  
廿七日、右同断親方帰帆前罷成候付、豊見城親雲上  
上下やしき中人数被相招、左之通段々預<sup>(取カ)</sup>持、

二而進候事、

一同日、接貢渡唐船出帆いたし候事、

一廿五日、親方帰帆前罷成、私始家中人数

昼夜持兼<sup>(待カ)</sup>さひしく体罷在候付、左之人数

心入ヲ以いつれも下やしき江罷出、遊<sup>(山カ)</sup>之催

有之、八ツ時分いつれも相揃緩々相慰、夜之

八ツ時分罷帰候事、

上原按司 宜寿次親方 仲村親方

内間親雲上 富盛親雲上 内間里之子親雲上

豊見城親雲上 父天願里之子親雲上 宜寿次家内人数

仲村家内人数 知花親方御前

内間親雲上家内人数 上原御殿御家内人数

豊見城親雲上内儀子共 喜久里里之子母

伊集里之子内儀 喜久里里之子内儀

大工廻し母 玉城はあ前 平小之ねはあ前

右御人数 八寸重一組、又者まんたう・茶請

など段々御持参有之、別冊三相記候、

一座構茶之湯此方下人数、膳等ハ是<sup>(出カ)</sup>相<sup>□</sup>

候事、

一茶請・きんひん一重・ノ物一重差出候事、

一廿七日、右同断親方帰帆前罷成候付、豊見城親雲上

上下やしき中人数被相招、左之通段々預<sup>(取カ)</sup>持、



仲村親方 申すに、先相招し、段々御馳走  
 有之、下やしきにも家内人数遊山之催  
 有之、重なと持参段々心入有之候処、仲村  
 里之子親雲上・佐久真里之子親雲上也も近々帰帆之筈ニ而、宜寿次・  
 仲村も此方同然待兼申事ニ而、今日  
 上下やしき中相招、夜之九ツ前迄相慰候事、  
 一吸物三ツ・取肴・焼酎・硯ふた出、晩者し、  
 糝馳走いたし候事、  
 一上下屋敷中人数、天願里之子親雲上・惣慶里之子親雲上、  
 内間親雲上内儀・上原按司御室・豊見城親雲上  
 妻も罷出候事、  
 一宜寿次・豊見城茶請一重ツ、持参有之  
 候事、  
 一三日、親方帰帆待兼、先日善興寺江占御頼  
 いたし候処、今日六日迄四日之内二者帰帆可  
 有之、又者右四日之内帰帆無之候ハ、来ル十四日  
 十五日両日之内二者帰帆有之筈与、御籤之興趣共  
 書拔被下、且今日者吉日ニ而、上下やしき中  
 人数其外内間・勝連御殿・上原御殿人数弁  
 之嶽江罷出慰申約束ニ而、いつれも八ツ時分  
 御揃緩々慰ニ而、夜之九ツ時分罷出候事、  
 一旅おとうり又者うた三味線などニ而、童子共

扇子舞、又者供之者共口説はやし狂言  
なといたし候事、

一夜飯者皆々持参ニ而給候事、

一五日、勝連按司母を、御殿物見江罷出慰候様兼而催有之、  
上下屋敷中、昼飯後国中城江罷出相慰、酉

時分三者勝連御殿江罷出、南表之物見ニ而相慰、

暖庫御馳走有之、夜入候而者余之人数罷帰、

宜寿次・仲村・知花ハ御殿うら座ニ而相かたらい、

穆共馳走有之、夜之五ツ時分罷帰候事、

一六日、嫡子浦崎筑登之親雲上昨日罷出承候者、当時

親方婦帆待兼徒然可罷在候間、明六日愚宅江

罷出度、左候ハ、本立寺・天王寺・蓮華院長老衆

又者宜寿次親方・仲村親方・知花親方も催上、

碁共打緩々御咄相慰度由承、今日八ツ時分

罷出、いづれも追々御出緩々御咄、夜之四ツ時分罷帰候事、

一昼間まんたう汁菜相付、晩ハ茶めし・むし

ふた之手引相付、馳走有之候事、

一座鍋三品々煮調持参、いづれも御馳走いたし

候事、

一伍徳院長老も私を誘上御出被成候事、

一七日、仲村親方妹むたしや・仲村親方家人人数、

下船見物ニ石之辻江罷越、ばん方いづれも

候事、

國學下江罷越拜見いたし、物見ニ而人々往來見物いたし、  
入相時分罷歸候事、

一八日、此内者<sup>(虫喰)</sup>風吹続候付、下り船相見得申事も  
可有之与、いづれも國中城江罷出見可申与

申含置候処、今日者風強其上寒く有之候付、  
皆々下屋敷ニ罷越、童子共又者供之者共おとり

狂言共させ相慰、夜之九ツ時分罷歸候事、  
一宜寿次・仲村始上下やしき中女共罷出

候事、  
一ぶくに梅之作花立合候付、浜川親雲上・歌知念

筑登之親雲上私宅ニ罷居候付、晩方者相招うた三味線させ、  
別而慰ニ相成候事、

一夜飯者銘々取寄給候事、  
一宜寿次親方・仲村親方・父天願里之子親雲上・浜川親雲上

知念筑登之親雲上二汁一菜之輕料理、此方取寄御馳走  
いたし候事、

一上原御殿人数ハ相招候処、母ハ無抛用事有之由  
候付不罷出、真加戸者茶請共持參罷出候事、

一九日、当四月以来便船無之、親方左右不承、とふか  
帰帆無之内吉左右承、心静ニ帰帆相待申度

昼夜念願仕居候処、今日左之通吉左右到来、  
大慶安堵いたし、深更迄相祝候事、

一宜寿次親方・仲村親方・父天願里之子親雲上・浜川親雲上  
知念筑登之親雲上二汁一菜之輕料理、此方取寄御馳走  
いたし候事、



今日慶佐次村沖江汐懸いたし候由

一 十日、  
様々私井かま戸江吉左右承候御祝詞二、  
上使城田親雲上御出被成候付、御三献・御菓子差上、  
例之通御取持仕候事、

但、翌十一日かま戸私名代相兼御拜申上候事、  
一 十二日、亡室一周忌之弔仕筈候処、親方乗船  
今明日中二者帰帆仕筈二而、弔召延候事、  
一 靈前江靈供相備、もち一對・メ物一对相備、  
紙焼々香仕候事、

一 上下屋敷中・女子中・豊見城親雲上室相招  
候付、銘々菓子持参、焼香いたし候事、  
一晚ハ手引一ツ之夜飯・菓子馳走いたし候事、

一 十四日、親方乗船之儀、去九日大田親雲上乘船之春楳船、  
返上物宰領才府天願里之子親雲上・垣花親雲上  
乗船春連漕船三艘類船三而、山川出帆いたし順風好く、  
親方乗船八ツ時分那覇川入津いたし候事、

一 一門親類其外近付之方那覇、父者観音堂江  
罷出相迎、私者家内人数相列観音堂江罷出  
相待候処、酉頭時分親方始帰帆之人數罷登  
候付、いづれも面会大慶安堵いたし候事、  
一天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、

一 天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、

一 天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、

一 天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、

一 天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、

一 天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、

一 天願・垣花・大田乗船ハ今日入津無之候、





一 煎茶一重  
 一 國分多葉粉一斤  
 一 諸白一瓶  
 一 一かつう節十  
 一 冬瓜一ツ  
 一 昆布一折  
 一 孫龜・次良・樽も相列、九ツ時分  
 富盛を料理八寸重一組到来、  
 但、此方下女共相招、さうめん吸物・夜  
 めし馳走為有之由、  
 一 廿八日、夜前七ツ頭時分  
 野嵩按司加那志様於豊見城御殿  
 太子様被遊御誕生、世上恐悦至極奉存候事、  
 一 五ツ時分、豊見城御殿江參上、御近習  
 高嶺里之子親雲上御取次、  
 按司加那志様御祝詞申上、司雲按司其外御  
 女性様方江も御祝詞申上候付、御小座敷江被召呼  
 司雲按司宮里あや前御逢被成、御祝詞  
 申上候事、

一 直登城、御近習御取次  
御佐按司加那志様江御祝詞申上、退城いたし

候事

一 廿九日、朝衣冠ニ而登城、御花・御酒献上御祝儀  
可奉申上旨、触有之候処、足之痛有之登城  
難成、前川里之子親雲上名代ヲ以御花・御酒献上、御祝儀  
申上候事、

亦日

野嵩按司加那志様  
太子様御登城被遊候様、  
御意之趣有之、九ツ時分御登城被遊候付、私事  
御祝言可申上由、豊見城按司より御使  
有之、早速色衣裳ニ而罷出、御殿門外西表  
ニ而、御発駕之時拝候而御祝言申上候事、

一 右勤者、聞得大君加那志御始、御殿御揃被成候  
御女性方御相談ヲ以被仰付由、八巻も用意  
ニ而罷出候処、御内証之事ニ而冠ニ者  
不及由被仰聞候付、色衣ニ而拝申候事、  
一 同日、親方大和々大菊梅之作花相求持下、  
花瓶ニ投入させ、別而見事有之候付、左之人數  
招上入御覽、緩々御咄いたし候事、

一本立寺・伍徳院・蓮華院・宜寿次親方

仲村親方

一いつれも御出被成候付、此節始而下り候柳之森与

申茶上候処、殊之外御賞味被成、吸物・とんだあ

盆桜酒上、晩者和さうめん小皿小梅相付、

再進ニ而御馳走いたし候事、

十一月中

一四日、前川里之子親雲上事、去巳年楊梅疹相煩、其以後

きつ毒差発、此程段々療治方いたし候へ共、

いまた快無之、先天一氣湯可然与存、今日

崎山親雲上相招相談いたし候処、弥右法相用

可然与同意被致上部ニ相用候加葉配濟

書付被相渡候事、

但右葉、十日之晩ニ相用候事、

一十一日、森田筑登之親雲上事、中城間切上原請地売払、

代錢伊江しま江借渡之一件ニ付、去月廿四日

島江差遣候処、昨日陸地ニ罷登候由ニ而罷出、

島ニ而相談之趣承届候事、

一段々相談を以、先年借相渡候六万貫文、

例之通四万九千弍百貫文、一割五分利足ニ而、

砂糖七千八百斤相納候相談相決、証文持登候由、

此方差遣候書付、又者島□□之証文委細之儀

（別冊カ）

□□ニ相□候事、

（記カ）

候由、

小浜にや江三千五百貫文借渡候証文、しち物等も  
持登候事、

一十二日、蓮華院長老々、椿之花咲出候間、詠覽  
可致由二而、兼而直々御出、左之人数御招有之、八ツ  
頭時分いづれも罷出花見物いたし、緩々御咄、夜  
入候而罷帰候事、

一問之吸物五ツ・取肴・硯ふた二・どんぶり二ツ・  
九年母など出、昼間合もち、晩手引

一之茶めし御馳走、被為入御念儀候事、  
一御出之人数、本立寺・天王寺・伍徳院・  
法堂・私・宜寿次親方・仲村親方・倅

親方

一供之者迄一汁一菜之料理被下候由、  
一私より例之通散砂糖八寸一重、親方々和茶

二包致進覽候事、  
一天王寺与困碁二番打、一番ツ、勝候事、

一十六日、来廿一日、  
太子様御髪撫被遊、御名付私江被仰付筈二而、

慶世村親雲上より内々為心得しらせ申候由二而、  
かま戸江

御名書被遣拝見仕候事、  
一十八日、右三付上使勝連親雲上御出□□□趣

親方

一供しと一汁一菜し料理ら由中  
一私より例之通散砂糖守一重親方々和茶

一天王寺与困碁二番打、一番ツ、勝候事、

太子様御髪撫被遊、御名付私江被仰付筈二而、  
慶世村親雲上より内々為心得しらせ申候由二而、

御名書被遣拝見仕候事、  
一十八日、右三付上使勝連親雲上御出□□□趣

承知仕、左之通御取持仕、御返詞無御遣□  
御名付之勤被仰付、冥加至極難有次第奉存、  
成合候様被仰上可被下由、申上候事、

一御出之砌、私本門内ニ而御礼儀いたし、  
前川里之子御先ニ御案内、玄喚ニ御通  
被成候事、

一御着座被成候付、御茶上、たはく盆上、  
御吸物・和さうめん・御差味くらき・御吸物  
ふた差上、御盃頂キ、御菓子・御茶上、前文  
之通御返詞申上、御帰之時御礼儀最前之通、  
一登城ニ而御請御礼之儀、御免被仰付段承知、  
是又難有次第奉存候事、

是又難有次第奉存候事

一廿一日、早朝朝衣冠ニ而登城、於奥御書院御名  
奉書、御近習頭江差上、御内原御書院江

私・与那原親方參上、諸事御例之通相勤、於  
奥御書院御料理・御菓子頂戴、御近習頭御取次

御拝申上、夜之五ツ過時分退城いたし候事、  
一御内原御書院江

佐敷按司加那志様・上様・野嵩按司加那志様江□  
出御被遊筈候処、

佐敷按司加那志様・上様ハ御不快被遊御座、  
野嵩按司加那志様出御被遊候事、

御内原御書院江

御近習頭御取次

御御書院御料理

御菓子頂戴

一 御酒進上之儀、私相勤申筈候処、老体ニ而  
 御免被仰付、与那原親方御勤被成候事、  
 一 書院奉行衆も御相伴之御伺  
 被成候処、老体大屈ニ有之筈候間、御相伴者  
 御免被仰付、私ハ於奥御書院緩々いたし、  
 御料理も頂きさせ候様、  
 御意被成下、重畳難有次第ニ奉存候事、  
 一 与那原親方・私於御内原御書院ニ、五本  
 入扇子一箱・杉原紙一束拝領被仰付  
 候付、頭御取次御拝申上候事、  
 一 みはな・御酒献上仕候事、  
 一 大子様、弁才天堂・聞得大君御殿江被遊  
 御筈駕候砌、御行逢本部王子御勤  
 被成候事、  
 一 廿八日、親方持下候小池、宜寿次親方下知ニ而  
 後之家庭ニ居候事、  
 一 仲村親方も相招、徳浜里之子親雲上見廻ニ罷出  
 候付、緩々咄共いたし、出来合之いもまんたう  
 小平有合相付、御馳走いたし候事、  
 一 廿九日、御右筆主取島袋里之子親雲上江、去々年  
 新服制頭書切た、り見不申候間、御面倒  
 なから御評定所格護之品を御書入清書被成

被給度由、私・悴三而□□仕置候処、成就いたし候とて  
 持參被給候付、則披見いたし候処、本文頭書共  
 自分被書調、別而為被入御念儀忝存候事、  
 但、右三付私・親方兩人三而御札申入、左之通  
 品物致進覽候事、  
 私私 一 国分多葉粉七把 一 丹後島一反  
 親方親方 一 茶家一和 一 煎茶々わん十  
 一 とんぶり一 一 国分たはく一斤  
 以上十二月三日  
 十二月 中  
 一 二日、高所御用をかみ真境名にや、筑登之座敷  
 御位頂戴いたしたる由三而罷出候付、吸物・菓子  
 馳走いたし、左之通くり候、  
 一 洪扇子一本 一 嶽引たはく入一ツ  
 一 六日、四男浦崎筑登之親雲上るいもねい大煮到来  
 二付、左之通差遣候事、  
 一 酒代 一 昆布一折  
 一 同日、宜寿次親方勘定奉行被仰付候御拜二付、  
 上下やしき中被相招、祝候事、  
 一 吸物一ツ・さうめん・大吸物・焼酎・硯ふた  
 馳走有之候事、  
 一 右三付私私塩ふた一折、親方親方塩魚

申上候事

七日、四ツ過時分本立寺久々ニ不懸御目候付、次良召列御見廻いたし候処、那覇江御下為被成由ニ而、不懸御目、直下やしきニ罷越、西過時分罷(帰)候事、

一本立寺江柳之森一包、立之焼茶家一

有合ニ而致進覽候考ニ而持参いたし

候処、御他出之折ニ而、御帰次第見せ上可申由、

留主居之者申達相渡候事、

八日、早朝本立寺御出、昨日御見廻申上輕品致進覽候御礼被仰聞、田かく御馳走被成度候間、

七ツ時分罷出度由被仰聞、次良相列伺公

いたし候処、田楽・夜めし御馳走緩々御咄、夜入候而罷帰候事、

一和干菓子一重七寸・ふめ瓶ニ梅酒入瓶共

進覽いたし候付、別而御喜悦厚礼被仰聞

候事、

一村吉里之子親雲上有合ニ而、村吉先ニ而囲碁いたし

候処、一番勝一番まけ候事、

一回日、天王寺々御献上之御下り折目もち一重

被下候事、

一本立寺江罷出懸、右御礼ニ参上いたし候処、

長老ハ御隠居江御出為被成由ニ而、不懸御目候、  
十一日、昨日亡室一周忌弔ニ付而、晚宿着ニ而  
私々さんひん菓子一重八寸、真つるる吸物一ツ  
相手向、焼香いたし候事、

十二日、亡室一周忌弔ニ付、諸事左条之通  
所行候事、

一 弔僧月堪和尚、維那一人・同宿一人御頼、  
御勤被成候事、

一 焼香ニ相招候人数、膳部・到来物等別冊  
之通、

但、美里王子・饒波按司加那志・上原按司・  
伊江按司御出、其外相招候人数被罷出

候事、

同日、高所下代真境名にや、今日御拜仕候由ニ而、  
ノ物一重到来ニ付、酒代差遣度候処、取込ニ付  
遣之者ニ而相届候様申合、相渡候事、

一十三日、今朝伍徳院長老御見廻、今日者天気も  
能候間、歩行かてらに八ツ後罷出度由被仰聞、  
八ツ後罷出候処、緩々御咄いたし吸物一ツ・まんだう  
小平相付御馳走、酉時分長老御同心ニ而知花  
罷出、物見ニ而往来之人見物いたし、茶々請・吸物共  
出、御咄いたし、入相時分罷帰候事、

今日、高所下代真境名にや、今日御拜仕候由ニ而、  
ノ物一重到来ニ付、酒代差遣度候処、取込ニ付  
遣之者ニ而相届候様申合、相渡候事、  
一十三日、今朝伍徳院長老御見廻、今日者天気も  
能候間、歩行かてらに八ツ後罷出度由被仰聞、  
八ツ後罷出候処、緩々御咄いたし吸物一ツ・まんだう  
小平相付御馳走、酉時分長老御同心ニ而知花  
罷出、物見ニ而往来之人見物いたし、茶々請・吸物共  
出、御咄いたし、入相時分罷帰候事、

一 御座候に唐和茶二包・和刻たはく三折

持参致進覽候事、

一 長老・御両□御前も罷出候付、次男知花里之子

女子誕生いたし候祝儀、且昨日七室一周忌

弔仕候付、菓子・香・酒代差遣、他出いたし候礼共

申入、且婦誕生ニ付錢拾五貫文取寄、

軽少なから産後手薬用進候段申達

候事、

一 十四日、浦崎里之子親雲上る、朝日車与申椿一鉢、

花最中ニ而候間、詠覽可致由ニ而持参、此前ニも

一 鉢到来、心入忝存候事、

一 同日、真南風按司御事、御姉妹御位御頂戴

被成候付、按司加那志・義村御殿・宜野湾御殿

御祝儀申上候事、

一 義村御殿・宜野湾御殿ハ親方、真南風御殿ハ

まつる、自分之御祝儀相兼申上候事、

一 十六日、去九・十月親方婦帆近く罷成候付、

左之通順風好海上安全之立願仕置候付、

今日吉日ニ而話願いたし候事、

一 御願所、観音堂・そのひやん・弁才天・円覚寺

仏殿・弁之嶽・びつるもう・西森・末吉之

社檀・家中火之神御前・御神両所参拜

社檀が事、おとす神、おとす神、おとす神

一 浦崎里之子親雲上る、朝日車与申椿一鉢、

花最中ニ而候間、詠覽可致由ニ而持参、此前ニも

一 鉢到来、心入忝存候事、

一 同日、真南風按司御事、御姉妹御位御頂戴

被成候付、按司加那志・義村御殿・宜野湾御殿

御祝儀申上候事、

一 義村御殿・宜野湾御殿ハ親方、真南風御殿ハ

まつる、自分之御祝儀相兼申上候事、

一 十六日、去九・十月親方婦帆近く罷成候付、

左之通順風好海上安全之立願仕置候付、

今日吉日ニ而話願いたし候事、

一 御願所、観音堂・そのひやん・弁才天・円覚寺

仏殿・弁之嶽・びつるもう・西森・末吉之

社檀・家中火之神御前・御神両所参拜

社檀が事、おとす神、おとす神、おとす神

平本

一 觀音堂・弁才天ハ、去年五月廿五日親方  
乗船出船之日早朝、後之家住居御座江小鳥  
飛入、座中飛廻南表江飛出候付、何様  
之儀ニ而右通候哉、碯与驚入、右向  
御宝前江參詣、四ツ拝・三十三拝・九拝□答  
ニ而相勤候処、如何様念願相叶候半、首尾  
克婦帆安堵仕候付、今日も本文之通三十三拝  
相勤候事、  
木札り奉事、  
西森参拜之時、富盛西森江罷出、一刻宅江  
立寄茶共給候様承候処、早々社檀江參詣  
不致候而不叶候付、社檀江茶々請共差遣、為  
入念儀ニ存候事、

一 罷歸候付、火之神之御前・御神両御前、御  
靈前御焼香御拝仕候事、  
一 願人数其外下々迄、夜飯馳走いたし  
候事、

一 十六日、吉日親方御国許々持下候  
弁才天觀音御殿結構ニ相調、今日より信仰  
仕候付、私御拝相勤候事、  
一 十七日、宜寿次亡母様正御月忌三付、例之通赤むし  
かう一重・一森御茶一包差上、御焼香仕候事、

いたし候事、

一 觀音堂・弁才天ハ、去年五月廿五日親方

乗船出船之日早朝、後之家住居御座江小鳥

飛入、座中飛廻南表江飛出候付、何様

之儀ニ而右通候哉、碯与驚入、右向

御宝前江參詣、四ツ拝・三十三拝・九拝□答

ニ而相勤候処、如何様念願相叶候半、首尾

克婦帆安堵仕候付、今日も本文之通三十三拝

相勤候事、

一 西森参拜之時、富盛西森江罷出、一刻宅江

立寄茶共給候様承候処、早々社檀江參詣

不致候而不叶候付、社檀江茶々請共差遣、為

入念儀ニ存候事、

一 罷歸候付、火之神之御前・御神両御前、御

靈前御焼香御拝仕候事、

一 願人数其外下々迄、夜飯馳走いたし

候事、

一 十六日、吉日親方御国許々持下候

弁才天觀音御殿結構ニ相調、今日より信仰

仕候付、私御拝相勤候事、

一 十七日、宜寿次亡母様正御月忌三付、例之通赤むし

かう一重・一森御茶一包差上、御焼香仕候事、

一 親方参上、御悔も取添申上候事、

同日、真栄平按司十二成御娘御夭亡被成候付、

一 翌十八日、御香・御酒代・御塩代差上候事、

同日、昨日故岡村筑登之親雲上養母被致死去候段

承、悔申入、香・酒代・塩粥差遣候事、

一 十八日、下やしき二本立寺・伍徳院・仲村親方・

村吉筑登之親雲上御出会、緩々御咄いたし、夜之四ツ

過時分罷帰候事、

一天王寺・蓮華院・法堂も催上候処、御用事

有之由三而御出無之候、

一 昼間まんと、晚粥御馳走いたし候事、

一 十九日、親方登城、真栄平按司御娘御夭亡被成候

御悔、

上々様御三所江申上候事、

但、親方・まつる・孫共も参上、御焼香仕候事、

同日、真栄平按司十二成御娘御夭亡被成候付、

親方参上、御悔も取添申上候事、

一 翌十八日、御香・御酒代・御塩代差上候事、

同日、昨日故岡村筑登之親雲上養母被致死去候段

承、悔申入、香・酒代・塩粥差遣候事、

一 十八日、下やしき二本立寺・伍徳院・仲村親方・

村吉筑登之親雲上御出会、緩々御咄いたし、夜之四ツ

過時分罷帰候事、

一天王寺・蓮華院・法堂も催上候処、御用事

有之由三而御出無之候、

一 昼間まんと、晚粥御馳走いたし候事、

一 十九日、親方登城、真栄平按司御娘御夭亡被成候

是者別而懇望二而、私も御子孫江も相讓度候間、御大儀之至候へ共、御書調被給度由申入候付、随分書写給候由、約束いたし置候事、

附、唐和之筆法入用之由、御書集百枚

ほと有之由、

一廿二日、宜寿次親方事、当御番ニ付御出仕ニ乘馬ニ而登城、退城之砌、高原殿内脇門之辺ニ而落馬いたし、額右之方石に当り強くつき痛せ、血大分ニ走出及難儀候付、医者又吉筑登之親雲上・高良筑登之相頼、療治方いたし候事、

右三〇〇左ノ通差遣候、

一右、吉の葛一包 北源茶一包

梅醬一朱具 大麦一重

錢三十拾貫文

一廿三日、天王寺殿言長老々隱居所江左之人数

御招有之、九ツ時分罷出緩々御咄、夜之五ツ過時分罷歸候事、

一御招之人数内間親方・伊志嶺親方・私・

宜寿次親方・仲村親方・悴親方・本立寺・

伍徳院・蓮華院・慈照院

但、宜寿次親方昨日落馬いたし不被罷出候、

昼間、蕎麦切・間之吸物・取肴・硯ふた・こんぶ之

梅醬一朱具

右麦一重

一廿三日、天王寺殿言長老々隱居所江左之人数御招有之、九ツ時分罷出緩々御咄、夜之五ツ過時分罷歸候事、

一御招之人数内間親方・伊志嶺親方・私・

宜寿次親方・仲村親方・悴親方・本立寺・

伍徳院・蓮華院・慈照院

但、宜寿次親方昨日落馬いたし不被罷出候、

吞くうなど段々出、晩ハ手引一之茶めし  
 御馳走有之候事、  
 一 鶴之森茶一包・龍眼もち一重持参進候事、  
 一 廿九日、歳之夜ニ而宜寿次・仲村御焼香仕候事、  
 一 仲村ハ歳之夜ニ者御焼香為仕覚無之候へ共、  
 歳之末又者元旦ニ者御焼香仕候而可然与、  
 いづれも相談ヲ以本文之通也、尤年頭御焼香ハ  
 日柄見合、御香・御酒代差上御焼香仕候事、  
 一 当年迄者嘉例召止置候付、御霊前御茶湯・御  
 めし・御料理差上、いづれも御焼香仕候事、  
 吞くうなど段々出、晩ハ手引一之茶めし  
 御馳走有之候事、  
 一 鶴之森茶一包・龍眼もち一重持参進候事、  
 一 廿九日、歳之夜ニ而宜寿次・仲村御焼香仕候事、  
 一 仲村ハ歳之夜ニ者御焼香為仕覚無之候へ共、  
 歳之末又者元旦ニ者御焼香仕候而可然与、  
 いづれも相談ヲ以本文之通也、尤年頭御焼香ハ  
 日柄見合、御香・御酒代差上御焼香仕候事、  
 一 当年迄者嘉例召止置候付、御霊前御茶湯・御  
 めし・御料理差上、いづれも御焼香仕候事、